

略スルコトヲ得

- 四 男女年少者別欄ニハ十六歳以上ノ男ハ「男」、十六歳未満ノ男ハ「年少」、女ハ年齢ニ拘ラズ「女」ト記載スベシ
- 五 入坑時刻欄及出坑時刻欄ニハ其ノ者ノ入坑時刻及出坑時刻ヲ記載スベシ但シ第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シタルモノニ付テハ入坑時刻欄ニハ所定入坑終了時刻ヲ記載スベシ
- 六 延長時間欄ニハ其ノ者ノ入坑ヨリ出坑迄ノ時間ガ第五條第一項又ハ第六條ノ二第一項ノ時間ヲ超エタル場合ニ於テ其ノ超エタル時間ヲ記載スベシ
- 七 第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シ所定ノ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻トス
- 八 深夜就業時刻欄ニハ第七條ノ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未満ノ者若ハ女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スベシ
- 九 事由欄ニハ前二號ニ該當スル場合ニ其ノ事由ヲ記載スベシ
- 十 第七條ノ二第三項ノ許可アル場合ニハ坑内ノ點檢場所ヲ以テ坑口トス

附則

本令ハ昭和十五年法律第百二號(第十條ノ改正規定ヲ除ク)施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際他ノ省令ニ於テ「鑛夫勞役扶助規則」トアルハ「鑛夫就業扶助規則」トス

鑛夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ特例ニ關スル件

昭和八年六月
內務省令第十六號

鑛業權者ハ主トシテ殘炭ヲ採掘スル石炭坑ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ當分ノ内鑛夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得

附則

本令ハ昭和八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

女子ノ坑内就業ニ關スル鑛夫就業扶助規則

第十一條ノ二第一項ノ特例ニ關スル件

昭和十四年八月
厚生省令第二十八號

第一條 鑛業權者ハ主トシテ薄層若ハ殘炭ヲ採掘スル石炭坑以外ノ石炭坑又ハ石炭山以外ノ鑛山ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ鑛夫就業扶助規則第十一條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラズ二十五歳以上ノ女子(妊娠中ノ者ハ之ヲ除ク)ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得

第二條 鑛業權者ハ毎年少クトモ二回醫師ヲシテ前條ノ規定ニ依リ坑内ニ於テ就業スル女子ノ健康診斷ヲ爲サシムベシ

鑛夫就業扶助規則中ノ特例ニ關スル件

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十七年三月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

技能者養成ノ爲ノ鑛夫就業扶助規則

第十一條ノ二ノ特例ニ關スル件

昭和十五年四月
厚生省令第十二號

鑛業權者ハ工場事業場技能者養成令ニ基ク技能者養成ノ爲必要アルトキハ鑛夫就業扶助規則第十一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ十五歳以上十六歳未滿ノ者ヲシテ一週二回以内通ジテ八時間ヲ限リ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛業ニ於ケル雇傭就業規則及

砂鑛夫名簿等ニ關スル件

昭和十六年五月
原省令第十八號

第一條 砂鑛法第二十三條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル砂鑛權トハ常時五十人以上ノ砂鑛夫ヲ使用スルモノトス

前項ノ砂鑛業ニ於ケル砂鑛夫ノ雇傭就業規則ニ關シテハ鑛夫就業扶助規則第一條、第二條及第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第二條 砂鑛權者ノ砂鑛業事務所ニ備置クベキ砂鑛夫名簿ニ關シテハ鑛夫就業扶助規則第三條及第四條ノ規定ヲ準用ス

第三條 砂鑛權者ハ砂鑛夫ノ雇傭又ハ就業ニ關シ紛擾ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ報告スベシ

第四條 雇傭就業規則ニ違反シタル砂鑛權者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
砂鑛法施行細則第二十一條ノ規定ニ依リ砂鑛業代理人ヲ置キタルトキハ砂鑛權者ニ適用スベキ本令ノ罰則ハ之ヲ砂鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セザル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ昭和十五年法律第百三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛業ニ於ケル雇傭就業規則及砂鑛夫名簿等ニ關スル件

勞働者年金保險法

昭和十六年三月
法律第六十號

第一章 總 則

- 第一條** 勞働者年金保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ老齡、廢疾、死亡又ハ脫退ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス
- 第二條** 勞働者年金保險ハ政府之ヲ管掌ス
- 第三條** 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セララルル者ガ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金又ハ給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ
- 第四條** 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條** 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及廢疾手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、廢疾年金、遺族年金、脫退手當金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
- 第六條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 勞働者年金保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他勞働者年金保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬並ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料及延滞金ヲ徵收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ
第十二條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵

收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十三條 國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ハ保險料其ノ他ノ本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ之ヲ準用ス

第十四條 政府ノ事業ニ使用セラルル者及使用セラレタル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 被保險者

第十六條 健康保險法第十三條ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル労働者ハ労働者年金保險ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 常時十人未滿ノ労働者ヲ使用スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者

二 勅令ヲ以テ指定スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者

三 女子

四 船員保險ノ被保險者

五 帝國臣民ニ非ザル者

六 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル労働者ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ノ認可ヲ受ケ労働者年金保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得

一 前條第一號、第二號又ハ第三號ノ規定ニ該當スル者

二 健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業ニ使用セラルル者

三 前二號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ニ使用セラルル者

四 前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業及前二號ノ事業ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者

前條第四號乃至第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ認可ヲ申請スルニハ事業主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條 第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ際同條ノ規定ニ依ル被保險者トシテ其ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ前條ノ認可アリタルモノト看做ス

一 第十六條ニ規定スル労働者ヲ常時十人未滿使用スル工場、事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

二 第十六條第二號ノ規定ニ依リ指定スル工場、事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

三 前條第一項第二號、第三號又ハ第四號ノ事業ト爲ルニ至リタルトキ

第十九條 第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ同條但書ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日、第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ同條ノ認可アリタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第二十條 第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十六條第四號乃至第六號若ハ第十七條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日

ノ翌日(其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日)ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十一條 第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ資格ヲ喪失スルコトヲ得前項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十二條 被保險者タリシ期間十四年以上二十年未滿ナル者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ同項ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタル日以後ニ新ニ發シタル疾病又ハ負傷ニ因ル廢疾ニ關シテハ保險給付ヲ爲サズ

第二十三條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間トヲ合算シテ二十年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 保險給付及福祉施設

第一節 總 則

第二十四條 被保險者タリシ期間ノ計算ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格

ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ之ヲ止ム但シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

前項ノ規定ニ拘ラズ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ左ニ掲グル期間ハ之ヲ合算セズ

- 一 脱退手當金ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間
- 二 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ被保險者トシテ引續キ使用セラレタル實期間六月未滿ナルトキハ其ノ期間

前項但書ノ規定ハ第五十一條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ使用セララル被保險者ニシテ常時坑内作業ニ従事スルモノ(以下坑内夫タル被保險者ト稱ス)ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ付被保險者タリシ期間ヲ計算スル場合ニ於テハ其ノ實期間ニ付前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ニ三分ノ四ヲ乘ジテ之ヲ計算ス但シ左ニ掲グル期間ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

- 一 前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間三年未滿ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間
- 二 坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ付前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ガ十

勞働者年金保險法

五年ヲ超ユル場合ニ於テ十五年ヲ超ユル部分ノ實期間

第二十六條 遺族年金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 養老年金、廢疾年金及遺族年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第二十八條 政府ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二十九條 保險給付トシテ支給ヲ受クル金銭ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第二節 養老年金

第三十一條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十五歳ヲ超エタルトキ又ハ五十五歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス
坑内夫タル被保險者トシテ第二十四條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十五年以上使用セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキヨリ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス繼續シタル十五年間ニ於テ坑内夫タル被保險者トシテ同條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十二年以上使用セラレタル者

ニ付亦同シ

第三十二條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ毎十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前二項ノ規定ニ拘ラズ養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ五十ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十三條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者（第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ヲ含ム以下同シ）ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス
前項ノ規定ハ第三十九條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十五條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ養老年金ノ支給ヲ

停止ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ

ハ前後ノ被保險者タリシ期間ヲ合算シテ養老年金ノ額ヲ改定ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ額ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ額ガ従前ノ養老年金ノ額ヨリ少キトキ

ハ従前ノ養老年金ノ額ヲ以テ改定養老年金ノ額トス

第三節 廢疾年金及廢疾手當金

第三十六條

被保險者ノ資格喪失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ガ勅令ノ定ム

ル期間内ニ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ其ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル程度

ノ廢疾ノ状態ニ在ル者ニハ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄廢疾年金ヲ支給シ又ハ一時金ト

シテ廢疾手當金ヲ支給ス

廢疾年金又ハ廢疾手當ノ支給ヲ受クルニハ廢疾ト爲リタル日前五年間ニ被保險者タリシ期間三年

以上ナル者タルコトヲ要ス

第三十七條

廢疾年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額

トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均

報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タ

リシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セララル廢疾年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間

ノ每十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

トス

第三十二條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

廢疾手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ニ相當スル金額トス

第三十八條

被保險者タリシ期間二十年未滿ナル者ニシテ廢疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタ

ル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル廢疾年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受クルコトヲ

得ベカリシ脱退手當金及被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ノ合算額（被保險者タリ

シ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ十三月分ニ止ム）ニ相當スル金額ニ滿タザル

トキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

前項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十九條

被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニシテ廢疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタ

ル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル廢疾年

金ノ總額ガ廢疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族

ニ支給ス

第四十條

養老年金及廢疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス

第四十一條

廢疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ廢疾年金ノ支給ヲ受クル程度ノ廢疾ノ状態ニ該當

セザルニ至リタルトキハ爾後廢疾年金ヲ支給セズ

第四十二條

養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ廢疾手當金ヲ支給セズ

第四十三條 第三十五條ノ規定ハ廢疾年金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第四節 遺族年金

第四十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第四十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

一 養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セララルル養老年金又ハ廢疾年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第四十六條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者アルトキハ其ノ者ニ遺族年金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ期間ハ既ニ支給セラレタル期間ト合算シテ十年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十七條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス

一 養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ廢疾年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ

受ケタル遺族年金トノ合算額ガ養老年金又ハ廢疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ其ノ者ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第五節 脱退手當金

第四十八條 被保險者タリシ期間三年以上二十年未滿ナル者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年ヲ經過シタルトキハ脱退手當金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ廢疾手當金ノ支給ヲ受クルトキハ一年ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ拘ラズ現ニ被保險者タル者ニ對シテハ脱退手當金ハ之ヲ支給セズ

第四十九條 脱退手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三十分ノ一ノ額ニ被保險者タリシ期間ニ依リ別表ニ定ムル日數ヲ乘ジテ得タル金額トス但シ廢疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ廢疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十條 廢疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脱退手當金ヲ支給セズ

第五十一條 廢疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十一條ノ規定ニ依リ廢疾年金ノ支給ヲ受ケザ

ルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル廢疾年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ノ額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第六節 保險給付ノ制限

第五十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ廢疾年金、廢疾手當金又ハ遺族年金ヲ支給セズ

第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者、被保險者タリシ者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給セズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ス

第五十三條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ重大ナル過失ニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ廢疾年金又ハ廢疾手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十四條 廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコトヲ得正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シテハ廢疾年金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五條 養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及廢疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時

差止ムルコトヲ得

第七節 福祉施設

第五十六條 政府ハ被保險者、被保險者タリシ者又ハ保險給付ヲ受クル者ノ福祉ヲ増進スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第四章 費用ノ負擔

第五十七條 國庫ハ保險給付ニ要スル費用ニ付勅令ヲ定ムル所ニ依リ坑内夫タル被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ二ヲ、其ノ他ノ被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ勞働者年金保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十八條 政府ハ勞働者年金保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十一條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第五章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第六十二條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ中央社會保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第六十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ中央社會保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第六十五條 本法ニ規定スルモノノ外中央社會保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第一百五十八條第二項及第一百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 罰 則

第六十七條 正當ノ理由ナクシテ第十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十八條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ若ハ文書ノ提示ヲ爲サズ又ハ其ノ他必要ナル事務ヲ行ハザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第七十一條 本法施行ノ期日ハ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定竝ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ現ニ使用セララル事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ現ニ使用セララル工場、事業場若ハ事業ニ同日迄引續キ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ五年以上使用セラレタル者ニシテ同日ニ於テ同條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間二十年未滿ニシテ五十歳（鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セララル者ニ在リテハ四十五歳）ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳（鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ従事スル者トシテ使用セララル者ニ在リテハ四十五歳）ヲ超エタ

ル者ニシテ同日ニ於テ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間六月以上三年未滿ニシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第四十八條ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ脱退手當金ヲ支給スルコトヲ得但シ前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條但書ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ第二十四條ノ規定ニ依リ計算シタル期間六月未滿(第一項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ一年未滿)ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ關シテハ第二十四條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

第七十三條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ於テ被保險者タリシ期間ハ第二十四條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ニ之ヲ算入セズ

第七十四條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ勅令ヲ以テ定ムル共済組合ノ組合員タル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金契約ノ年金受取人タル者ニ關シテハ其ノ契約ガ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ本法及郵便年金法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 退職積立金及退職手當法中左ノ通改正ス

第十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勞働者年金保險ノ被保險者タル勞働者ニ付テハ其ノ二分ノ一以上ヨリ積立ヲ爲サザルコトノ申出アリタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

被保險者タリシ期間	日數	被保險者タリシ期間	日數
三年以上	四十日	十二年以上	百六十五日
四年以上	五十日	十三年以上	百八十日
五年以上	六十日	十四年以上	二百日
六年以上	七十五日	十五年以上	二百二十日
七年以上	九十日	十六年以上	二百四十日
八年以上	百五日	十七年以上	二百六十日
九年以上	百二十日	十八年以上	二百八十日
十年以上	百三十五日	十九年以上	三百日
十一年以上	百五十日		

健康保險法

大正十一年四月
法律第七十號

改正 大正一五年第三四號、昭和四年第二〇號、九年第一三號
一四年第七四號、一六年第五九號

第一條 健康保險 於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出產手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ト同一ノ世帯ニ屬シ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者（以下世帯員ト稱ス）ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ要シタル費用ニ付補給金ヲ支給スルコトヲ得

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス
命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一條第二項ノ補給金ヲ支給スル場合ニ於テハ世帯員又ハ世帯員タリシ者ノ戶籍ニ關シ之ヲ準用ス

第八條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動、報酬等ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシメ其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬竝ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ行政官廳ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料及延滯金ヲ徵收ス

第十二條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ健康保險組合ガ保險者ナル場合ニ

於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ市町村ニ對シ處分ヲ請求スルモ市町村ガ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザル場合ニ限ル

前項但書ノ規定ニ依リ健康保險組合ガ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

保險者ガ第一項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ヲ請求シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第一項及前項ノ規定ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス
第十一條ノ三 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十一條ノ四 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十二條 政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ、一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員及職員健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場

二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場

三 左ニ掲グル事業ニシテ常時五人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ

(イ) 物ノ製造、加工、選別、包装、修理又ハ解體ノ事業

(ロ) 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

(ハ) 電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業

(ニ) 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

(ホ) (ニ)ニ掲グルモノヲ除クノ外貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

(ヘ) 貨物積卸ノ事業

(ト) 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

第十四條

前條ノ工場、事業場又ハ事業ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業ニ付亦同シ

一 前條第三號ノ事業ニシテ常時五人未滿ノ労働者ヲ使用スルモノ

二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

三 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一

又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第十三條ノ工場又ハ事業ガ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ工場又ハ事業ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ

第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

職員健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ同法第二十六條第一項ノ認可アリタル場合ニ於

テハ其ノ認可アリタル日ノ翌日ヨリ健康保險ノ被保險者ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレサル

ニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其

ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其

ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者

ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ際引續キ六十日以上

被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間内ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得
但シ職員健康保險又ハ船員保險ノ被保險者タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ

經過シタルトキ、保險料ヲ納付セズシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ、第十三條

若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキ又ハ職員健康保險若ハ船員保險ノ被保險者ト

爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保 險 者

第二十二條 健康保險ノ被保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコト

ヲ得

第二十三條ノ二 保險者ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ非ザル者ヲシテ保險者ノ施設ヲ利

用セシムルコトヲ得

保險者ハ其ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ

組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保健給付
第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ
主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ通ジテ一年ニ至ル迄繼續シテ療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ保險給付ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル
傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養ノ給付ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必

要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

- 一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ
- 二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ三十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ三十日ニ滿タサルトキハ之ヲ三十圓トス

被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 削除

第五十四條 出產手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十七條ノ二 前三條ノ規定ニ拘ラズ被保險者タリシ者職員健康保險又ハ船員保險ノ被保險者ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險給付ヲ爲サズ

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出

產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サズ

第六十一條 被保險者鬪爭、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ其ノ期間ニ係ル保險給付ハ之ヲ爲サズ

- 一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
 - 二 本法施行區域外ニ在ルトキ
 - 三 矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ入院セシメラレタルトキ
 - 四 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ
- 他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

前項ニ掲クル者ニ付テハ第四十六條及第五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

保險者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者第一項各號ノ一ニ該當スル場合ト雖モ第一條第二項ノ補給金ヲ支給スルコトヲ妨ゲズ

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得
保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價格ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス
第六十九條ノ二 第六十條、第六十二條第一項及第二項、第六十五條並ニ第六十七條ノ規定ハ世帯員ニ之ヲ準用ス

第五十五條ノ規定ハ第一條第二項ノ補給金ニ之ヲ準用ス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス
保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

七十二條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ小額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ増加スルコトヲ得

七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十条ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第八十二條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ二ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定及民事訴訟費用法第九條及第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲ス證據調ニ關シテハ過料ニ處シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十七條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第五十八條第二項及第五十九條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰 則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ノ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍

ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 削除

第九十二條 事業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九十三條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附則

本法ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年法律第二十號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ付テ之ヲ定ム但シ第八十六條ノ改正規定中民事訴訟法ノ規定ノ準用ニ關スル部分ハ大正十五年法律第六十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和四年勅令第四百十二號ヲ以テ昭和四年六月一日ヨリ施行)

附則 (昭和十四年法律第七十四號)

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十五年勅令第三百六十一號ヲ以テ第一條第二項、第七條第二項、第四十七條第二項第三項、第六十二條第四項及第六十九條ノ二ノ規定並ニ第七十六條ノ改正規定ヲ除クノ外昭和十五年六月一日ヨリ施行

(昭和十五年勅令第四百三十一號ヲ以テ未ダ施行セラレザル部分ハ昭和十五年七月一日ヨリ施行)

分娩ニ關スル保險給付ニシテ第五十三條ノ改正規定施行ノ日前ニ爲シタルモノ及同規定施行ノ日前後ニ跨ルモノニ關スル費用ノ分擔ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十年十月二十六日
內務省告示第五百六十一號

健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業左ノ通指定ス

下水道ニ關スル工作物ノ建設、保存、修理又ハ破壊ノ工事

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十六年三月十日)

健康保險法施行令

大正十五年六月
勅令第二百四十三號

改正 昭和二年第三〇號、第二二〇號、四年第一四三號、第二五〇號
九年第四〇〇號、一三年第二〇號、一五年第三七三號

第一章 總 則

第一條 健康保險者第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍ハ常時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲グルモノヲ除ク

- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當
- 二 通動手當
- 三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ
- 四 其ノ他厚生大臣ノ指定スルモノ

第二條 賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス

前項ノ標準價格ハ其ノ地方ノ時價ニ依リ之ヲ定ム
健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條 健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬日額ニ基キ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

標準報酬ノ等級	標準報酬日額	報 酬 日 額
第一級	三 十 錢	三十五錢未滿
第二級	四 十 錢	三十五錢以上 四十五錢未滿
第三級	五 十 錢	四十五錢以上 五十五錢未滿
第四級	六 十 錢	五十五錢以上 六十五錢未滿
第五級	七 十 錢	六十五錢以上 七十五錢未滿
第六級	八 十 錢	七十五錢以上 八十五錢未滿
第七級	一 圓	八十五錢以上 一圓十五錢未滿
第八級	一 圓 三 十 錢	一圓十五錢以上 一圓四十五錢未滿
第九級	一 圓 六 十 錢	一圓四十五錢以上 一圓七十五錢未滿
第十級	一 圓 九 十 錢	一圓七十五錢以上 二圓十五錢未滿
第十一級	二 圓 二 十 錢	二圓十五錢以上 二圓三十五錢未滿
第十二級	二 圓 五 十 錢	二圓三十五錢以上 二圓六十五錢未滿

第十三級	二圓八十錢	二圓六十五錢以上
第十四級	三圓十錢	二圓九十五錢以上 三圓二十五錢未滿
第十五級	三圓五十錢	三圓二十五錢以上 三圓七十五錢未滿
第十六級	四圓	三圓七十五錢以上

第四條 標準報酬ハ毎年六月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ八月一日ヨリ翌年七月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於ケル標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ其ノ日ヨリ其ノ年七月三十一日（六月二日ヨリ十二月三十一日迄ノ間ニ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ翌年七月三十一日）迄其ノ效力ヲ有ス
被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ從前ノ標準報酬ニ依ル

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條 第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス
一年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一

三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

四 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿チサルトキハ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ從事シ同様ノ報酬ヲ受ケル被保險者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リテ算定シタル額

五 前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿チサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

七 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

被保險者ノ報酬日額カ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ

保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五條ノ二 健康保險法第十一條第一項ノ規定ニ依リ保健料其ノ他同法ノ規定ニ依ル徵收金納付ノ督促ヲ爲サントスルトキハ保險者ハ納付義務者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ督促手数料トシテ二十錢ヲ徵收ス

第五條ノ三 前條ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ徵收金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ徵收金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スベキ情狀アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 納入ノ告知書一通ノ徵收金額五圓未滿ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ
- 三 納付義務者ノ住所及居所ガ帝國內ニ在ラザル爲又ハ其ノ住所及居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納入ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ徵收金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ

第六條 健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ事業主カ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ政府力事業主ナルトキハ厚生大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 政府ノ事業ニ使用セララル被保險者ガ共済組合ノ組合員ナル場合ニ於テ其ノ組合ノ給付ノ種類及程度ヲ厚生大臣ニ於テ適當ナリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ其ノ被保險者ニ對シテハ健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ヲ爲サズ

第八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル者ニ付テハ保險料ハ之ヲ徵收セズ

第二章 被保險者

第九條 臨時ニ使用セララル者ノ中左ニ掲クル者ハ健康保險法第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ

規定ニ依リ被保險者タラサルモノトス但シ第一號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セララルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 六十日以内ノ期間ヲ定メテ使用セララル者
- 二 使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セララル者
- 三 日日雇入レラルル者
- 四 前各號ニ掲クルモノノ外厚生大臣ノ定ムル者

第十條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日(繼續シテ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

第三章 健康保險組合

第一節 組合ノ設立

第十一條 事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者(健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者)全部ニ送付スヘシ

- 一 組合員タルヘキ者ノ範圍
- 二 組合ノ組織ノ概要

健康保險法施行令

- 三 保険料ノ概要
- 四 保険給付ノ概要
- 五 其ノ他事業計畫ノ概要

第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
- 四 公示ノ方法
- 五 其ノ他組合ニ關シ重要ナル事項

第十三條 組合ハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ

健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第十四條 組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ事業主之ヲ定メ厚生

大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 組合設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ厚生大臣ハ左ノ事項ヲ告示スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
- 四 認可ノ年月日

前項各號ノ事項ニ關スル規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ厚生大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第十六條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ公示スヘシ

第十七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク組合會ヲ招集シ組合設立ノ經過、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十八條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ

第二節 組合ノ會議

第十九條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十條 議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ事業主（若ハ其ノ代理人）及其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就キ之ヲ選定シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十一條 議員就職シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ議員退職又ハ死亡シタルトキ亦同

第二十二條 議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十三條 選舉人タル組合員議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第二十一條ノ公示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ理事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ理事ハ二十日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付シ其ノ決定アリタルトキハ

健康保險法施行令

遲滞ナク之ヲ公示スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ三十日以内ニ監督官廳ニ訴願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

議員ハ第二項ノ決定又ハ前項ノ訴願ノ裁決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十四條 本令ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格、任期、選定及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算
- 三 收入支出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
- 四 準備金ノ管理方法
- 五 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
- 六 組合債
- 七 規約ノ變更
- 八 保險料率
- 九 訴願訴訟ノ提起及和解
- 十 其ノ他重要ナル事項

第二十六條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議

決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 組合會ハ理事之ヲ招集ス

議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

組合會開會中急施ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ理事之ヲ開閉ス

第二十八條 組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

決算ノ認定ニ關スル會議ノ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十二條ノ除外ノ爲半數ニ滿チサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ

依ル

第三十一條 規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條 議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十三條 議員ハ自ラ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ病氣其ノ他已ムラ得ザル事由ニ因リ會議ニ出席スルコト能ハサル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス

第三十四條 組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除クノ外組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得

第三十五條 議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得
被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三節 組合ノ役員

第三十六條 組合ニ理事ヲ置ク

理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シタル議員ニ於テ之ヲ互選ス

理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ選舉ス

第三十七條 理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條 組合ノ事務ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第三十九條 組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ監督官應ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第四十條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第四十一條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十一條ノ二 規約變更ノ認可アリタルトキハ理事ハ遲滞ナク之ヲ公示スベシ

第四十二條 理事ハ規約、財産目錄、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議錄ヲ事務所ニ備フヘシ
組合員前項ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第二十一條、第二十四條及第三十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

第四節 組合ノ財務

第四十四條 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十五條 組合ハ每會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官應ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ
豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第四十六條 組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第四十七條 組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第四十八條 組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

第四十九條 組合ハ保険料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ハ少クトモ保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度（既往ノ年度三年未滿ナルトキハ既往年度）ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額）ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度内ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 準備金以外ノ財産ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及前項ノ一時借入金ハ當該會計年度内ニ之ヲ返還スベシ

第一項ノ一時借入金ヲ爲シ得ベキ限度ハ毎年度監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サントスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 組合ノ分合解散

第五十六條 組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ

第五十七條 組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ厚生大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條 分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存續スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第五十九條 合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ニハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合

ノ權利義務ヲ承繼ス
分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務
ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ厚生大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第六十二條 組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ厚生大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又
ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存續スル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
- 四 認可ノ年月日

第六十三條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ付之ヲ準用ス
合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタ
ル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タリシ者之
ヲ行フ

第六十四條 組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之
ヲ議決シ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時的ナル場合ニ於テハ解散スル

コトナシ

第六十六條 組合解散シタルトキハ厚生大臣ハ第六十二條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合ノ設立アル事業ヲ増減セムトスルトキハ編入又ハ削除セララルヘキ事業ノ事業主ノ
全部及其ノ事業ニ使用セララル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

編入又ハ削除セララルヘキ事業二以上アル場合ニ於テハ前項ノ被保險者ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得
ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時
ニ事業編入ニ關スル規約變更ノ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第六十八條 第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常
時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第七十條 組合カ第六十七條ノ同意ヲ求メムトスルトキハ事業ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十一條各
號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載シタル書面
ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送付スヘシ

第六節 組合ノ監督

第七十一條 厚生大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以内ニ議員ノ選定及選舉ヲ爲スヘシ

第七十二條 健康保險法第三十九條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ

健康保險法施行令

得ス

第七十三條 第二十三條第三項、第三十九條、第四十五條第一項、第四十九條、第五十一條、第五十三條第三項、第五十四條及第五十五條ニ於テ監督官廳トアルハ保険院長官トス

第四章 保險給付

第七十四條 健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
- 三 處置、手術其ノ他ノ治療
- 四 看護
- 五 被保險者ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他保險者必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一同二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ保險者必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第七十五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得但シ健康保險法第四十三條第三項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコトヲ得

第七十七條 左ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

- 一 保險者ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
 - 二 被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ
 - 三 被保險者カ緊急ノ場合ニ於テ保險者ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ
- 健康保險組合ハ前項各號ノ外規約ヲ以テ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得

第七十八條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ保險者之ヲ定ム

第七十九條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スベキ傷病手當金ハ專ラ其ノ者ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合ニ於テハ標準報酬日額ノ百分ノ二十ニ相當スル金額トス

第七十九條ノ二 健康保險組合ハ健康保險法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ療養ノ給付ヲ爲サントスルトキハ規約ヲ以テ其ノ旨ヲ定ムベシ

第七十九條ノ三 健康保險法第四十七條第二項但書ノ規定ニ依ル期間ハ百八十日トス

第八十條 出產手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間之ヲ支給ス

分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ保險者ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第八十一條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ分娩費ノ額八十圓トス

産院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スル出産手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス

第八十二條 分娩ニ關スル保險給付ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十日以上被保險者タリシ者ニ對シテハ分娩費ヲ支給シ又ハ助産ノ手當ヲ爲ス

第八十三條 削除

第八十四條 被保險者タリシ者分娩ニ關スル保險給付ヲ受クルニハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日以後百八十日以内ニ分娩シタルコトヲ要ス

第八十四條ノ二 健康保險法第五十五條乃至第五十七條ノ規定ニ該當スル被保險者タリシ者職員健康保險又ハ船員保險ノ被保險者ト爲リタル場合ニ於テ職員健康保險法、船員保險法又ハ船員法ニ於テ健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ト同種ノ給付ヲ爲ストキハ健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ハ之ヲ爲サズ

第八十五條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ報酬ノ額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第八十六條 前條ニ掲グル者其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ニ付其ノ全額ヲ受クルコト能ハサリシトキハ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全額、其ノ一部ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ於テ受ケタル額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ額ト傷病手當金又ハ出産手當金トノ差額ヲ支給ス但シ前條但書ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ一部ヲ受ケタルトキハ其ノ額ヲ支給額ヨリ控除ス

第八十七條 第十九條又ハ第八十一條ノ規定ハ健康保險法第六十二條第二項ニ掲グル者ニ對シ支給スベキ傷病手當金又ハ出産手當金ニ之ヲ準用ス

第八十七條ノ二 健康保險法第一條第二項ノ補給金ノ支給ハ引續キ一年以上被保險者タリシ者ト同一ノ世帯ニ屬シ專ラ其ノ者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ疾病又ハ負傷ニ關スルモノニ限ル

第八十七條ノ三 健康保險法第一條第二項ノ補給金ハ前條ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ關シ入院ニ要スル費用又ハ一回十圓以上ノ處置料若ハ手術料ニ付保險者ニ於テ必要アリト認めタル場合ニ於テ之ヲ支給ス

補給金ノ額ハ保險者ノ定ムル所ニ依リ前項ノ費用ヲ計算シタル額ノ二分ノ一ニ相當スル額トス但シ現ニ要シタル費用ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

補給金ヲ支給スベキ療養ノ期間ニ付テハ健康保險法第四十七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス前條ノ疾病又ハ負傷ニ關シ他ノ法令ノ規定ニ依リ療養費ノ支給又ハ療養アリタルトキハ其ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ補給金ハ之ヲ支給セズ

第八十七條ノ四 健康保險組合ハ補給金ノ支給ヲ爲サントスルトキハ規約ヲ以テ其ノ旨ヲ定ムベシ

第八十八條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテハ保險者ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メ其ノ者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ決定ハ保險者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタルトキ遲滞ナク之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ
被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ヲ支給ス

前項ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス

第八十九條 傷病手當金及出產手當金ハ少クトモ毎月二回一定ノ期日ニ之ヲ支給スヘシ但シ毎月一回報酬ノ支拂ヲ受クル被保險者ニ付テハ毎月一回其ノ報酬支拂ノ日ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得
療養費、埋葬料及分娩費ハ其ノ都度之ヲ支給スヘシ健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ニ付亦同シ

第八十九條ノ二 健康保險法第十七條第二項ノ規定ニ依ル被保險者ニ關シテハ第七十九條ノ三、第八十二條及第八十七條ノ二ノ規定ニ依ル期間ノ計算ニ付職員健康保險ノ被保險者タリシ期間ヲ合算ス

第五章 費用ノ負擔

第九十條 健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

前項ノ概算拂ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第九十一條 健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依ル國庫負擔金算定ノ基礎タル保險給付ニ要スル費用ノ額ハ療養ノ給付、産院收容及助産ノ手當ニ直接要シタル金額並傷病手當金、出產手當金、分娩費、埋葬料、療養費及健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給額ノ合算額トシ毎年度之ヲ計算ス但シ同法第四十八條ノ規定ニ依ル療養ノ給付ニ直接要シタル金額及同法第五十九條第一項ノ規定ニ依ル傷病手當金ノ支給額ハ之ヲ算入セス
前項ノ療養ノ給付、産院收容又ハ助産ノ手當ニ要シタル器具、機械、建築物其ノ他ノ施設ニシテ其ノ效用二年以上ニ亘ルモノニ付テハ之ニ要シタル費用ヲ其ノ施設ノ豫定使用年數ニ應シ各年均當ニ分割シテ之ヲ計算ス

第九十二條 健康保險法第七十條第二項ニ規定スル被保險者ノ員數ハ其ノ年度内ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ總數ノ平均數トス

第九十三條 健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ額ハ健康保險法第七十條第二項ノ國庫負擔金ノ總額ノ限度ニ於テ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ額ニ應シ厚生大臣之ヲ定ム

第九十四條 保險料額ハ一日ニ付各被保險者ノ標準報酬日額ニ保險料率ヲ乘シテ得タル額トス

第九十五條 保險料率ハ保險者之ヲ定ム

保險料率ハ各被保險者ニ付同一ナルコトヲ要ス但シ性質上事故多キ業務ニ使用セララル被保險者ニ付テハ其ノ業務ノ種類ニ從ヒ異ナル保險料率ヲ定ムルコトヲ得

第九十六條 性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ厚生大臣ハ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ保險料額ノ三分ノ二迄増加スルコトヲ得

第九十七條 第五條ノ規定ニ依リ算定シタル報酬日額五十五錢未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔額ハ報酬日額五十五錢以上六十五錢未滿ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付事業主ノ負擔スヘキ額ト同額トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場合ニ於テハ事業主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第九十八條 事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ場合ニ於テハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

事業主ハ被保險者カ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキニ限り前項ノ規定ニ拘ラス報酬支拂ノ際ニ於テ被保險者ノ負擔スヘキ前月分及其ノ月分ノ保險料ヲ控除スルコトヲ得

第九十九條 事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被保險者ノ請求ニ應ジ、閱覽セシムヘシ

第一百條 毎月ノ保險料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

保險者保險料納入ノ告知ヲ爲シタル後ニ於テ告知シタル保險料額ガ當該納付義務者ノ納付スベキ保險料額ヲ超過スルコトヲ知リタルトキハ其ノ超過部分ニ對スル納入ノ告知ハ其ノ告知ヲ爲シタル後六月以内ノ期日ニ於テ納付セラルベキ保險料ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納入ノ告知ヲ爲シタルモノト看做シタルトキハ保險者ハ其ノ旨ヲ當該納付義務者ニ通知スベシ

第一百一條 健康保險組合ハ第九十八條又ハ前條ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

收スルコトヲ得

- 一 國稅、府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
- 二 被保險者ノ使用セラルル工場又ハ事業場ヲ廢止シタルトキ
- 三 強制執行ヲ受クルトキ
- 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 五 競賣ノ開始アリタルトキ
- 六 法人ガ解散ヲ爲シタルトキ

第六章 審査ノ請求及訴願

第一節 健康保險審査會ノ組織

第一百二條 健康保險審査會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ健康保險法第八十條及第八十二條ノ審査ヲ爲ス

第一百三條 健康保險審査會ハ第一次健康保險審査會、第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會トス

健康保險審査會ノ名稱、位置及管轄區域ハ厚生大臣之ヲ定ム

第一百四條 健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第一百五條 第一次健康保險審査會ノ會長ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ第六條第一項第一號ノ委員中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命

第二次健康保險審査會ノ會長ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ厚生部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命

健康保險法施行令

第三次健康保險審査會ノ會長ハ保險院長官ヲ以テ之ニ充ツ

第六六條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 二人又ハ三人
- 二 被保險者ヲ使用スル事業主 二人又ハ三人
- 三 被保險者 二人又ハ三人

第二次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 三人
- 二 被保險者ヲ使用スル事業主 三人
- 三 被保險者 三人

第三次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 五人
- 二 被保險者ヲ使用スル事業主 五人
- 三 被保險者 五人

前二項ニ於テ被保險者ヲ使用スル事業主トアルハ事業主ガ國又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ關係官吏又ハ公吏、其ノ他ノ法人ナル場合ニ於テハ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ支配人トス

第一項ノ委員ニ付テハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第六七條 道廳又ハ府縣（東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同ジ）ノ官吏ニシテ主トシテ健康保險

ノ事務ニ從事スル者ハ健康保險審査會ノ委員タルコトヲ得ズ

健康保險審査會ノ委員ハ他ノ健康保險審査會ノ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第六八條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ厚生大臣之ヲ命シ第二次健康審査會及第三次健康保險審

査會ノ委員ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六九條 委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏トシテ委員タル者ヲ除クノ外三年トス但シ特別ノ事由アル場

合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第七十條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ幹事ハ道廳又ハ府縣ノ官吏中ヨリ厚生大臣之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ幹事ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ厚生部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七十二條 健康保險審査會ニ書記ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ書記ハ道廳又ハ府縣ノ判任官中ヨリ地方長官之ヲ命ジ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ書記ハ保險院ノ判任官中ヨリ厚生大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二節 健康保險審査會ノ審査手續

健康保險法施行令

第十三條 審査ハ保險給付ニ關スル決定又ハ保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分ヲ爲シタル地方長官ノ管轄區域又ハ健康保險組合ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル健康保險審査會ニ於テ之ヲ爲ス

第十四條 審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第百六條第一項乃至第三項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲ス事ヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十六條 審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス前項但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出願セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第十七條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ之ヲ所轄健康保險審査會ニ移送スヘシ
審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ健康保險審査會之ヲ補正セシムヘシ

第十八條 審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス傍聽ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第十九條 關係官吏ハ健康保險審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述べルコトヲ得

第二十條 事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第二十三條 本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十四條 削除
第二十五條 健康保險法第八十一條ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

附則
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際ニ限り第四條第一項但書中資格ヲ取得シタル日ノ現在トアルハ大正十五年十一月一日

ノ現在トス但シ大正十五年十一月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
政府ノ事業ニ使用セラルル官吏又ハ待遇官吏ニ付テハ當分ノ内厚生大臣ハ之ヲ健康保險ノ被保險者ト爲ササルコトヲ得

附 則 (昭和十五年勅令第三百七十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第七十九條ノ二、第七十九條ノ三及第八十七條ノ二乃至第八十七條ノ四ノ規定竝ニ第八十九條ノ二ノ規定中第七十九條ノ三及第八十七條ノ二ノ規定ニ關スル部分ハ昭和十四年法律第七十四號中第一條第二項、第七條第二項、第四十七條第二項第三項、第六十二條第四項及第六十九條ノ二ノ規定竝ニ第七十六條ノ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ第四條第一項ノ規定ニ依リ昭和十四年六月一日現在ニ依リ定メタル標準報酬又ハ同日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ定メタル標準報酬ハ昭和十五年七月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

健康保險法施行規則

大正十五年七月
內務省令第三十六號

改正 昭和二年第四〇號、三年第一二號、四年第一八號、第二九號、
九年第三九號、一〇年第二九號、一三年厚生省令第三〇號、一
五年第一九號

第一章 總 則

第一條 政府ノ管掌スル保險ハ健康保險法第十三條又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ於テ、同法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ住所地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ於テ之ヲ掌ル

第二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル場合ニ於テ被保險者二以上アルトキ又ハ其ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ガ異リタル道府縣ニ在ルトキハ被保險者ハ其ノ保險ヲ掌ルベキ地方長官又ハ健康保險組合ヲ定メ其ノ旨ヲ其ノ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ヅベシ

地方長官又ハ健康保險組合前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ關係アル地方長官又ハ健康保險組合ニ之ヲ通知スベシ

第三條 事業主ハ毎年六月一日現在ニ依リ被保險者ノ報酬日額算定ノ基礎ヲ様式第一號ニ依リ同月健康保險法施行規則

十日迄ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第四條 被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ事業主ハ様式第一號ニ準シ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第五條 前二條、第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ地方長官又ハ健康保險組合ハ被保險者ノ標準報酬ヲ決定シ遲滞ナク之ヲ事業主ニ通知スヘシ標準報酬ヲ變更シタルトキ亦同シ

事業主前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ被保險者ニ告知スヘシ

第五條ノ二 健康保險組合ハ保險料其ノ他健康保險法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收セントスルトキハ徵收スベキ金額ヲ決定シタル上納付義務者ニ對シ其ノ徵收金ノ種類並ニ納付スベキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スベシ但シ即納セシムル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第六條 健康保險法第九條ノ規定ニ依ル質問又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ様式第二號ニ依ル證票ヲ携帯スベシ

第六條ノ二 健康保險法施行令第五條ノ二ノ規定ニ依リ發スル督促狀ハ様式第二號ノ二ニ依ル

第六條ノ三 應府縣ノ官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テ示スベキ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ハ様式第二號ノ三ニ依ル

第六條ノ四 健康保險法第十一條ノ四ノ規定ニ依ル公告ハ道府縣廳（東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同ジ）應府縣健康保險出張所又ハ健康保險組合ノ事務所ニ之ヲ爲スベシ

第七條 健康保險法施行令第九十九條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所毎ニ之ヲ備フベシ

一 被保險者ノ氏名

二 控除シタル保險料ノ金額

三 控除シタル年月日

第八條 事業主ハ健康保險ニ關スル書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ二年間保存スヘシ

第八條ノ二 第三條、第四條、第五條第二項、第十條、第十一條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條、第二十三條第三項及第五項、第二十三條ノ二第一項及第二項、第四十五條第一項、第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十六條ノ四第二項、第五十七條第二項、第六十二條第二項及第六十四條ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スベキ事項ニ付テハ事業主ハ豫メ代理人ヲ選任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業主代理人ヲ選任シタルトキハ地方長官又ハ健康保險組合ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

第八條ノ三 事業主又ハ被保險者ガ地方長官又ハ健康保險組合ニ對シ届出、申請又ハ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ様式ノ定アルモノヲ除キ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ届書、申請書又ハ請求書ニ添附スベキ書類ハ届出、申請又ハ請求ノ際之ヲ提出スベシ但シ被保險者ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

口頭ヲ以テ届出、申請又ハ請求シタル者アル場合ニ於テ地方長官又ハ健康保險組合必要アリト認

ムルトキハ其ノ届出、申請又ハ請求ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名調印セシムベシ

第九條 保險者ニ於テ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲ニ爲スコトヲ得ル施設左ノ如シ

- 一 保健ニ關スル宣傳
- 二 傷病ノ豫防ニ關スル施設
- 三 健康診断ニ關スル施設
- 四 保養ニ關スル施設
- 五 前各號ニ掲グルモノノ外保險者ニ於テ必要アリト認ムル施設

第九條ノ二 健康保險法第二十三條ノ二第二項ノ規定ニ依ル利用料ニ關スル事項ハ保險者之ヲ定ム保險者ガ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ利用料ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第二章 被保險者

第十條 被保險者ノ資格ヲ取得シタル者アルトキハ事業主ハ様式第四號ニ依リ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ事業主ハ様式第五號ニ依リ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第十一條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者カ同法第十三條若ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ事業主ハ様式第四號ニ準シ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第十二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セララルトキハ其ノ各業務ニ付左ニ掲クル事項ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

一 事業主ノ氏名及住所

二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱及所在地

第十三條 健康保險法第十四條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

一 事業ノ名稱及種類

二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱及所在地

三 被保險者ト爲ルヘキ者ノ員數

健康保險法第十四條第一項ノ認可ノ申請ト同時ニ其ノ事業ニ付健康保險組合ノ設立又ハ事業ノ編入ニ關スル規約變更ノ認可申請アル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第十四條 健康保險法第十九條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

一 事業ノ名稱及種類

二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱、所在地及被保險者證ノ記號

三 被保險者ノ員數

四 組合ノ設立アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ名稱及所在地並其ノ組合力解散スヘキモノナルトキ健康保險法施行規則

ハ其ノ旨

四六六

第十五條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スベシ

- 一 住所
- 二 資格喪失ノ年月日
- 三 資格喪失ノ際使用セラレタル工場、事業場又ハ事業ノ名稱及被保險者證ノ記號
- 四 資格喪失後繼續シテ保險給付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル年月日
- 五 健康保險法施行令第十條ノ期限經過後申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由
- 六 資格喪失ノ際屬シタル應府縣(應府縣健康保險出張所ノ分掌ニ屬シタルトキハ其出張所)又ハ健康保險組合ノ名稱

第十六條 健康保險法第二十一條ニ規定スル猶豫期間ハ健康保險法施行令第百條ニ規定スル納付期日經過後十日トス

第十七條 被保險者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セサルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

- 一 被保險者ノ氏名
 - 二 被保險者ノ記號及番號
 - 三 該當ノ事實及該當シ又ハ該當セサルニ至リタル年月日
- 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者又ハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受ケル者健康保

險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ者ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第十八條 事業主ニ變更アリタルトキハ事業主タリシ者連署ヲ以テ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

- 一 事業ノ種類及新舊名稱
 - 二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ所在地及被保險者證ノ記號
 - 三 變更ノ年月日及事由
 - 四 事業主及事業主タリシ者ノ氏名及住所
- 事業ノ一部ニ付事業主ノ變更アリタル場合ニ於テハ前項各號ノ外被保險者ノ氏名並被保險者證ノ記號及番號ヲ届出ツヘシ

第十九條 健康保險法第十三條ノ工場又ハ事業ガ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

- 一 工場又ハ事業ノ名稱
 - 二 被保險者證ノ記號
 - 三 該當セザルニ至リタル年月日及事由
- 第二十條** 左ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ事業主ハ變更ノ事項及年月日ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ
- 一 事業ノ名稱又ハ種類

健康保險法施行規則

四六七

- 二 事業主ノ氏名又ハ住所
- 三 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱、所在地又ハ種類
- 四 被保險者ノ氏名

第二十條ノ二 事業主被保險者ノ勤務スル工場、事業場又ハ事務所ヲ變更シタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ五日以内ニ變更後ノ工場、事業場又ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 變更前ノ工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地
- 三 變更後ノ工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地
- 四 變更シタル年月日
- 五 報酬ニ異動アリタルトキハ其ノ内容(様式第四號「報酬日額算定基礎」欄ノ記載ニ準ズ)

第二十三條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ被保險者ノ變更アリタルトキハ届出ヲ受ケタル被保險者ハ従前ノ被保險者ニ對シ被保險者ノ勤務ノ場所ニ變更アリタル旨及變更ノ年月日ヲ通知スベシ此ノ場合ニハ返納アリタル被保險者證ヲ添付スベシ

第二十一條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ變更ノ事項及年月日ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ハ各地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ被保險者道府縣ニ涉リ住所ヲ變更シタルトキハ前項ノ届出ハ各地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ

第二十二條 第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ地方長官又ハ健康保險組合ハ其ノ被保險者ノ被保險者證ノ記號及番號ヲ遲滞ナク事業主ニ通知スヘシ其ノ記號及番號ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十三條 地方長官又ハ健康保險組合ハ様式第六號ニ依ル被保險者證ヲ被保險者ニ交付スヘシ地方長官又ハ健康保險組合被保險者證ヲ交付セントスルトキハ之ヲ被保險者ヲ使用スル事業主ニ送付スベシ但シ被保險者健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ナル場合ニ於テハ之ヲ被保險者ニ送付スベシ

前項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ送付アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク之ヲ被保險者ニ交付スベシ被保險者證ノ第一面ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ其ノ改訂ヲ受クル爲被保險者ハ遲滞ナク之ヲ事業主ニ提出スベシ

前項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ提出アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク其ノ改訂ヲ爲シ被保險者ニ返付スベシ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者(健康保險組合ニ屬スル者ヲ除ク)道府縣ニ涉リ住所ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク被保險者證ヲ地方長官ニ提出シテ其ノ改訂ヲ受クベシ

被保險者證ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ被保險者證ニ餘白ナキニ至リタルトキハ被保險者ハ遲滞ナク被保險者證ヲ添へ(滅失ノ場合ヲ除ク)其ノ旨ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第二十三條ノ二 被保險者其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ被保險者ニ變更アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク被保險者證ヲ回收シ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ但被保險者健康保險

法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ

被保險者ノ資格喪失ニ因リ事業主ノ返納スベキ被保險者證ハ之ヲ資格喪失届ニ添附スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ資格喪失届ニ附記スベシ

被保險者（健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ除ク）其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ保險者ニ變更アリタルトキハ其ノ被保險者證ヲ五日以内ニ事業主ニ提出スベシ但シ資格喪失後引續キ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

被保險者ノ資格喪失後引續キ保險給付ヲ受クル者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ

第一項ノ資格喪失ノ原因死亡ナルトキ又ハ第三項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ提出スベキ者若ハ前項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返納スベキ者死亡シタルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クベキ者ニ於テ其ノ請求ノ際被保險者證ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ

第三章 健康保險組合

第二十四條 健康保險組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ但シ健康保險法第三十二條ノ規定ニ依リ組合設立ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五號及第六號ノ書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

一 規約

二 事業計畫書

三 保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面

四 初年度ノ收入支出ノ豫算

五 健康保險法施行令第十一條ノ書面ノ寫（被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト）

六 組合ノ設立ニ付健康保險法第二十九條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類

第二十五條 健康保險法又ハ之ニ基ク命令ノ規定ニ依リ組合ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項

カ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ申請書ニ其ノ會議録ノ寫ヲ添附スヘシ

認可申請ヲ爲スヘキ事項カ健康保險法施行令第四十條ノ規定ニ依リ理事專決シタルモノナルトキ

ハ申請書ニ專決ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十六條 組合合併ノ認可申請書ニハ合併スル各組合ノ名稱及被保險者ノ員數並合併後存續スル

組合又ハ合併ニ因リテ成立スル組合ノ名稱ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 合併後ニ於ケル事業計畫書

二 認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル各組合ノ財産目録

三 合併ニ因リテ成立スル組合アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ規約、保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ

示シタル書面並初年度ノ收入支出ノ豫算

合併後存續スル組合アル場合ニ於テハ合併ニ伴フ規約變更ノ認可申請ハ合併ノ認可申請ト同時ニ

之ヲ爲スヘシ

第二十七條 組合分割ノ認可申請書ニハ分割スル組合、分割後存續スル組合及分割ニ因リテ成立スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添付スベシ

- 一 分割後ニ於ケル各組合ノ事業計畫書
- 二 認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル分割スル組合ノ財産目録
- 三 分割ニ因リテ成立スル組合ノ承斷スル權利義務ノ限度ヲ示シタル書面
- 四 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保険料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面並初年度ノ收入支出ノ豫算

前條第二項ノ規定ハ分割後存續スル組合ノ分割ニ伴フ規約變更ノ認可申請ニ之ヲ準用ス

第二十八條 組合解散ノ認可申請書ニハ解散スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調整シタル財産目録ヲ添付スベシ

第二十九條 被保險者タル組合員常時ナキニ至リタル爲組合解散シタルトキハ其ノ事由、組合ノ名稱及解散ノ年月日ヲ理事タリシ者ニ於テ遲滞ナク内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ解散ノ日ノ現在ニ依リ調製シタル財産目録ヲ添付スベシ

第三十條 組合ノ設立アル事業ノ編入又ハ削除ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ

- 一 規約變更後ニ於ケル事業計畫書
- 二 健康保險法施行令第七十條ノ書面ノ寫(被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト)
- 三 事業ノ編入又ハ削除ニ付健康保險法施行令第六十七條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ

足ル書類

第三十一條 組合合併又ハ分割シタル場合ニ於テハ理事又ハ理事タリシ者ハ其ノ組合員タリシ被保險者ノ保險ヲ管掌スル組合ノ理事ニ對シ遲滞ナク其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

事務引繼完了シタルトキハ引繼ヲ爲シタル者及引繼ヲ受ケタル者連署ノ上完了ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十二條 前條ノ規定ハ組合解散シタル場合及組合其ノ組合ノ設立アル事業ヲ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 組合會ノ會議録ニハ議長及出席議員二人以上之ニ署名スヘシ

第三十四條 收入支出ノ豫算ハ様式第七號ニ依リ之ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ認可申請ヲ爲スヘシ

第三十五條 保険料率ノ認可申請書ニハ計算ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添付スヘシ

第三十六條 決算ハ様式第七號ニ依リ、事業報告ハ様式第八號ニ依リ之ヲ調製シ年度經過後四月以内ニ組合會ノ認定ニ付スベシ

決算及事業報告ハ組合會ノ認定ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ事業報告ヲ組合會ノ認定ニ付シ又ハ地方長官ニ届出ツル場合ニ於テハ之ニ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目録ヲ添付スヘシ

第三十七條 財産目録ハ様式第九號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十八條 組合ハ事業報告ニ付組合會ノ認定ヲ經タルトキハ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目録ト共ニ之ヲ公示スヘシ

第三十九條 削除

第四十條 組合ハ様式第十號ニ依リ毎月ノ事業狀況ヲ翌月十五日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

第四十一條 組合原簿ハ様式第十一號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四十二條 組合ハ被保險者臺帳、歳入簿、歳出簿及現金出納簿ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條 組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ

地方長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムヘシ

第四十四條 理事長就職、退職又ハ死亡シタルトキハ組合ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベ

シ

第四章 保險給付

第四十四條ノ二 健康保險法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ結核性疾病ヲ指定ス

第四十四條ノ三 健康保險法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ支給スル保險給付ハ當分ノ内療養ノ給

付トス

第四十五條 被保險者療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師（以

下保險醫ト稱ス）ニ之ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テハ被保險者ハ被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提出スヘシ但シ已ムヲ得サ

ル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク被保險者證ヲ其

ノ保險醫ニ提出スヘシ

第一項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テ疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ提出スヘシ

健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依リ繼續シテ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得ル者療養ノ給付

ヲ受ケムトスルトキハ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得ルモノナルコトヲ保險者ニ於テ承認シタル書面

ヲ提示シテ之ヲ保險醫ニ申出ツヘシ

第四十六條 保險醫被保險者ニ對シ療養ヲ爲ササルニ至リタルトキハ遲滞ナク被保險者證ヲ被保險

者ニ返還スヘシ但シ其ノ被保險者死亡シタルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ

同法第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ

保險醫前項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返還スルトキハ被保險者證ノ第二面ニ掲クル事項ヲ之ニ記

載スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ保險醫第四十七條第一項ノ規定ニ依リ療養證明書ヲ交付シタルモノナルトキ

ハ第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ療養證明書ノ全部返納アリタルトキ被保險者證ヲ返還スヘシ但シ保

險醫變更ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 保險醫ノ療養ヲ受クル被保險者同時ニ他ノ保險醫ニ就キ療養ヲ受クルノ必要アルトキ

ハ被保險者證ヲ保管スル保險醫ニ就キ様式第十三號ニ依ル療養證明書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ療養證明書ハ之ヲ被保險者證ト看做シ前二條ノ規定ヲ適用ス

被保險者保險醫ヨリ療養證明書ノ返還ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付シタル保險醫（保險醫變更ノ場

合ニ於テハ變更後ノ保險醫）ニ遲滞ナク返納スヘシ

第四十八條 削除

第四十九條 被保險者ノ療養ノ爲必要アリト認ムルトキハ保險醫ハ地方長官又ハ健康保險組合ノ承認ヲ受ケ他ノ保險醫ノ診療ヲ求ムルコトヲ得

緊急ノ必要アリト認ムルトキハ保險醫ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ他ノ保險醫ノ診療ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ診療後遲滯ナク其ノ事由ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ報告スヘシ

第五十條 保險醫被保險者ヨリ處方箋ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

被保險者ニ對シ處方箋ヲ交付スル場合ニ於テハ保險醫ハ様式第十四號ニ依リ之ヲ作成スベシ

第五十一條 被保險者前條ノ規定ニ依ル處方箋ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケントスルトキハ保險者ノ指定シタル藥劑師(以下保險藥劑師ト稱ス)ニ之ヲ提出スベシ

第五十二條 療養ノ給付ヲ受クル疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ其ノ事實、第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨)並疾病又ハ負傷ノ狀況ヲ遲滯ナク地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツヘシ

第五十三條 被保險者健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ届出ツヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
- 三 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別

四 疾病又ハ負傷ノ經過

五 療養ノ給付ヲ受クルコト困難ナル事由

五ノ二 被保險者醫師又ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ醫師又ハ齒科醫師ノ氏名及住所並診療ノ内容、期間及之ニ要シタル費用ノ額

六 疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨)

疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ前項ノ届書ニ添付スベシ

被保險者特別ノ事情ニ因リ前項ノ證明書ヲ受クルコトヲ得サルトキハ届書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
被保險者醫師又ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證據書類ヲ第一項ノ届書ニ添付スヘシ
第一項ノ届書ニハ被保險者證ヲ添付スベシ

地方長官又ハ健康保險組合ハ被保險者證ノ第二面ニ掲グル事項ヲ被保險者證ニ記載シ之ヲ被保險者ニ返付スベシ

第五十四條 健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ承認ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲クル事項
 - 二 診療ヲ受ケムトスル醫師又ハ齒科醫師ノ氏名及住所並其ノ診療ヲ受ケムトスル事由
- 健康保險法施行規則

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ療養費支給ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 診療ノ内容及期間
- 三 診療ニ要シタル費用ノ額
- 四 診療ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ事由

前項ノ申請書ニハ診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

第五十三條第五項及第六項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 健康保險法施行令第七十七條第一項第三號ノ療養費支給ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 第五十三條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲クル事項
- 二 手當ヲ受ケタル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ氏名及住所
- 三 手當ノ内容及期間
- 四 手當ニ要シタル費用ノ額
- 五 緊急ナリシコトノ事由

第五十三條第二項、第五項及第六項並前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條ノ二 被保險者健康保險法施行令第七十四條第一項第三號（一回ノ費用二十圓ヲ超ユル

場合ニ限ル）乃至第五號ノ給付ヲ受ケ又ハ病院ニ入院セムトスルトキハ第五十三條第一項第一號乃至第三號ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク申請書記載事項及已ムヲ得サル事由ヲ記載シタル届書ヲ提出スヘシ

前項ノ申請書又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添附スヘシ

- 一 健康保險法施行令第七十四條第一項第三號乃至第五號ノ給付又ハ入院ヲ必要ト認ムル理由
- 二 給付ノ内容及之ニ要スベキ費用ノ見積額
- 三 病院ニ入院セムトスル場合ニ在リテハ入院ノ期間

第五十六條ノ三 被保險者健康保險法第四十七條第二項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ヲ受ケントスルトキハ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得ベキコトヲ保險者ニ於テ認定シタル書面ヲ提出シテ之ヲ保險醫ニ申出ヅベシ

被保險者前項ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 療養ノ給付開始年月日
- 前項ノ申請書ニハ其ノ疾病ガ結核性疾疾病ナルコトヲ證スルニ足ル醫師ノ意見書ヲ添附スベシ
- 前二項ノ規定ハ健康保險法第四十七條第二項ノ期間ニ支給スル補給金ニ付之ヲ準用ス

第五十六條ノ四 被保險者其ノ世帯員ノ疾病又ハ負傷ニ關シ健康保險法施行令第八十七條ノ三ノ規

定ニ依リ入院、處置又ハ手術ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク申請書記載事項及已ムヲ得ザル事由ヲ記載シタル届書ヲ提出スベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 診療ヲ受ケントスル世帯員ノ氏名、生年月日及被保險者トノ續柄
 - 三 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
 - 四 診療ヲ受ケントスル醫師又ハ齒科醫師ノ氏名及住所
- 前項ノ申請書又ハ届書ニハ世帯員タルコトヲ證スルニ足ル事業主ノ證明書及左ノ事項ヲ記載シタル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添附スベシ
- 一 入院又ハ一回十圓以上ノ處置若ハ手術ヲ必要ト認ムル事由
 - 二 診療ノ内容及費用
 - 三 入院診療ノ場合ニ在リテハ入院ノ期間

第五十六條ノ五 補給金支給ノ請求書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 診療ヲ受ケタル世帯員ノ氏名
- 三 診療ノ内容
- 四 診療ヲ受ケタル醫師又ハ齒科醫師ノ氏名及住所
- 五 診療ニ要シタル費用ノ額

第五十六條ノ六 世帯員保險醫以外ノ者ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於ケル補給金支給ノ請求書ニ

ハ前條各號ニ掲グル事項ノ外診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スベシ

第五十七條 傷病手當金支給ノ請求書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
 - 三 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
 - 四 勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
 - 五 傷病手當金カ健康保險法施行令第七十九條又ハ同令第八十七條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ專ラ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄、收容セラレタル病院、病舎又ハ療養所ノ名稱及所在地並收容セラレタル年月日及期間
 - 六 傷病手當金カ健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
 - 七 傷病手當金カ健康保險法施行令第八十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間並健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依リ受ケタル傷病手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由
- 前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 前項第四號ノ期間ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ證明書
 - 二 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ之ニ關スル事業主ノ證明書

療養ノ給付ヲ受クルコト困難ナル爲療養費ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ傷病手當支給ノ請求書ニハ前項各號ノ書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付引續キ傷病手當金ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ請求書ニ第二項第二號ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要セス

第五十八條 健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者ノ氏名並被保健者證ノ記號及番號
- 二 療養ノ給付ヲ受ケムトスル期間
- 三 療養ニ要スル費用ノ見積額
- 四 現ニ療養ヲ受クル保險醫ノ氏名及住所
- 五 健康保險法第四十八條第一項第一號ノ場合ニ於テハ事業主ニ於テ扶助ヲ爲スヘキ義務ノ基ク法令ノ條項
- 六 健康保險法第四十八條第一項第二號ノ場合ニ於テハ擔保ノ種類、數量及價格又ハ費用ノ償還ニ付定メタル方法

第五十九條 埋葬料支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫、死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主若ハ第八條ノ二ノ規定ニ依ル代理人ノ證明書ヲ添付スヘシ

- 一 死亡シタル被保險者ノ氏名並保險者證ノ記號及番號

二 死亡シタル年月日及原因

三 死亡カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所（氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨）

四 被保險者ト請求者トノ續柄

五 死亡ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別

第六十條 健康保險法第四十九條第二項又ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫、死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主若ハ第八條ノ二ノ規定ニ依ル代理人ノ證明書及埋葬ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添付スヘシ

一 前條第一號乃至第三號ニ掲クル事項

二 埋葬ヲ行ヒタル年月日

三 埋葬ニ要シタル費用ノ額

四 死亡ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別

第六十一條 分娩費支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長、醫師又ハ產婆ニ於テ出産又ハ死産ノ事實ヲ證明シタル書類ヲ添付スヘシ

一 被保險者證ノ記號及番號

二 分娩ノ年月日

三 死産ナルトキハ其ノ旨

健康保險法施行規則

四 分娩費ガ健康保險法施行令第八十一條第一項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ收容セラレタル産院ノ名稱及所在地又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル醫師若ハ産婆ノ氏名及住所

第六十二條 出產手當金支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 被保險者證ノ記號及番號

二 分娩前ノ場合ニ於テハ分娩ノ豫定年月日、分娩後ノ場合ニ於テハ分娩アリタル年月日

三 勞務ニ服セザリシ期間

四 出產手當金カ健康保險法施行令第八十一條第二項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ専ラ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄、收容セラレタル産院ノ名稱及所在地並收容セラレタル年月日及期間

五 出產手當金カ健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及

六 出產手當金カ健康保險法施行令第八十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間並健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依リ受ケタル出產手當金ノ額及報酬ヲ受クコト能ハサリシ事由

前項ノ請求書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一 前項第三號ノ期間ニ關スル事業主ノ證明書

二 分娩ノ豫定年月日ニ關スル醫師又ハ産婆ノ意見書

前項第二號ノ意見書ニ付テハ第五十七條第四項ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 削除

第六十四條 第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十六條ノ三第三項、第五十六條ノ四第三項、第五十七條第二項、第五十九條乃至第六十一條及第六十二條第二項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師若ハ産婆ノ意見書若ハ證明書又ハ事業主若ハ市町村長ノ證明書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ保險給付ノ請求書又ハ申請書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ意見書又ハ證明書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第六十五條 削除

第六十六條 保險給付ヲ受ケムトスル者ヨリ第四十五條第三項、第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十六條ノ四第二項、第五十七條第二項及第六十二條第二項ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキハ事業主ハ正當ノ事由アルニ非ザレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス第六十四條ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第六十六條ノ二 保險給付ヲ受ケムトスル者ヨリ第四十七條第一項ノ規定ニ依ル療養證明、第五十六條ノ二第二項、第五十六條ノ三第三項、第五十六條ノ四第二項、第五十七條第二項若ハ第六十二條第二項ノ規定ニ依ル意見書又ハ第六十一條ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキハ保險醫

ハ正當ノ事由アルニ非ザレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス第六十四條ノ規定ニ依ル意見又ハ證明ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第六十六條ノ三 地方長官又ハ健康保險組合ハ保險醫及保險藥劑師ニ就キ療養ノ給付ニ關シ帳簿書類ヲ檢閲シ、説明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

健康保險法施行規則

四八五

第六十七條 健康保險組合ハ其ノ管掌スル保險ノ給付ニ關スル手續ニ付第四十五條乃至第六十二條ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 削除

第六十九條 削除

第七十條 削除

第七十一條 本章ニ於テ被保險者トアルハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受クル者ヲ含ムモノトス

第五章 健康保險法第八十條ノ審査手續

第七十二條 審査ノ請求ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ第一次健康保險審査會ニ對スル審査ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 文書ヲ以テ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ審査請求書ニ記名調印シ證據書類アルトキハ之ヲ添附シ當該健康保險審査會ニ提出スヘシ

第一次健康保險審査會ニ對スル審査請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審査請求人ノ氏名、住所及生年月日竝審査請求人被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ非サルトキハ其ノ職業及被保險者又ハ被保險者タリシ者トノ關係
- 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名竝保險事故發生ノ際其ノ使用セラレタル工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地
- 三 保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ健康保險組合ノ名稱

四 保險給付ニ關スル處分ノ通知ヲ受ケタル年月日

五 請求ノ事件及一定ノ申立

六 請求ノ理由

七 立證

八 年月日

補給金ニ關スル審査請求書ニハ前項各號ノ事項ノ外世帯員ノ氏名、其ノ生年月日竝ニ被保險者トノ續柄ヲ記載スベシ

第二次健康保險審査會ニ對スル審査請求書ニハ第二項第一號、第二號及第六號乃至第八號竝ニ前項ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ第一次健康保險審査會ノ決定書又ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ

一 第一次健康保險審査會ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル年月日

二 第一次健康保險審査會ノ決定ニ對スル不服ノ程度及變更ノ申立

第七十四條 口頭ヲ以テ審査ヲ請求シタル者アルトキハ書記ハ前條第二項各號ノ事項ヲ記載シタル審査請求調書ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名調印セシメ證據書類アルトキハ之ヲ提出セシムヘシ

前項ノ審査請求調書ニハ之ヲ作製シタル書記署名捺印スヘシ

第七十五條 健康保險審査會審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ健康保險組合ニ對シ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ヲ送付スヘシ

地方長官又ハ健康保險組合前項ノ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ十日

以內ニ答辯書及證據書類ヲ當該健康保險審查會ニ提出スヘシ

第七十六條 健康保險審查會必要アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シテ當事者交互ニ辯駁書及答辯書ヲ提出セシムルコトヲ得

第七十七條 審査ノ決定書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審査請求人ノ氏名、住所及生年月
- 二 保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ健康保險組合ノ名稱
- 三 決定主文
- 四 決定ノ理由
- 五 年月日

前項ノ決定書ノ原本ニハ會長署名捺印スヘシ

第七十八條 健康保險審查會ハ前條ノ決定書ノ原本ニ基キ正本副本各一通ヲ作成シ健康保險審查會ノ印ヲ押捺シテ遲滯ナク正本ハ之ヲ審査請求人ニ交付シ副本ハ之ヲ關係アル地方長官又ハ健康保險組合ニ送付スヘシ

審査請求人ニ對シ決定書ヲ交付スルコトヲ得サルトキハ健康保險審查會ハ其ノ決定書ヲ揭示板ニ揭示スヘシ

前項ノ揭示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ決定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第七十九條 審査請求人ハ健康保險審查會ニ對シ決定書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章 罰 則

第八十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第三條、第四條、第十條、第十一條、第十七條第一項及第十八條乃至第二十條ノ二ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 二 第五條第二項ノ規定ニ依ル標準報酬ノ告知ヲ怠リタル者
- 三 正當ノ事由ナクシテ第六十六條ノ規定ニ依ル請求ニ應セス又ハ虚偽ノ證明ヲ爲シタル者
- 四 第七條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ノ備付若ハ記載ヲ怠リ、虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ故ナク被保險者ニ對シ閱覽ヲ拒ミタル者
- 五 第八條ノ規定ニ依ル書類ノ保存ヲ怠リタル者

第八十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第十七條第二項、第二十一條第一項及第五十二條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 二 事業主以外ノ者ニシテ第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納又ハ提出ヲ怠リタル者
- 三 第二十三條ノ二第一項但書、第四項若ハ第五項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ提出ヲ怠リタル者
- 四 第四十七條第三項ノ規定ニ依ル療養證明書ノ返納ヲ怠リタル者

附 則

第八條、第九條、第十三條乃至第十六條、第十九條、第二十一條、第二十四條乃至第四十四條、第

六十七條、第八十條及第八十一條ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ、第一條ノ規定ハ大正十五年十月一日ヨリ、第二條乃至第五條、第十條乃至第十二條、第十八條、第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ大正十五年十一月一日ヨリ、第六條、第七條、第十七條、第四十五條乃至第六十六條及第六十八條乃至第七十九條ノ規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十條第一項ノ規定ニ依ル届出ノ期間ハ第十條ノ規定施行ノ日以前ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ關シテハ第十條ノ規定施行ノ日ヨリ五日以内トス

附 則 (昭和四年内務省令第十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ交付シタル被保險者證及療養證明書ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

附 則 (昭和九年内務省令第三十九號)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和九年法律第十三號實施ノ爲ニ豫メ必要ナル事項ニ關シテハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ交付シタル被保險者證ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

本令施行前ニ處方箋ノ交付ヲ受ケタル被保險者ハ本令施行後ト雖モ之ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受クルコトヲ妨ゲズ此ノ場合ニ於ケル手續ハ従前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和十五年厚生省令第十九號)

本令ハ昭和十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ二ノ改正規定、第四十四條ノ二、第四十四條ノ三、第五十六條ノ三、第五十六條ノ四、第五十六條ノ五、第五十六條ノ六、第六十四條ノ改正

規定、第六十六條ノ改正規定、第六十六條ノ二ノ改正規定及第七十三條ノ改正規定並ニ様式第六號中(二)(三)ノ改正規定、様式第七號中(二)(三)ノ改正規定、様式第八號中(二)ノ改正規定及様式第十號ノ改正規定ハ昭和十四年法律第七十四號中第一條第二項、第七條第二項、第四十七條第二項第三項、第六十二條第四項及第六十九條ノ二ノ規定並ニ第七十六條ノ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ交付シタル被保險者證ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

被保險者報酬日額算定基礎届 昭和 年 月 日現在

様式第一號

工場、事業場所 又ハ事務所	(名稱)	(所在地)	算定基礎					標準報酬 日額等級
			合第五條第一項各號該當別日額 第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	
氏名	從來ノ 標準報酬 等級	被保險者 ノ記號 及添葉	賃金、給料又ハ俸給 賃金、給料又ハ俸給ニ準スル モ	賃金、給料又ハ俸給 賃金、給料又ハ俸給ニ準スル モ	賃金、給料又ハ俸給 賃金、給料又ハ俸給ニ準スル モ	賃金、給料又ハ俸給 賃金、給料又ハ俸給ニ準スル モ	賃金、給料又ハ俸給 賃金、給料又ハ俸給ニ準スル モ	賃金、給料又ハ俸給 賃金、給料又ハ俸給ニ準スル モ
備考								

昭和 年 月 日 住所又ハ所在地 事業主 氏名又ハ名稱

第九條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬並ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者ノタリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 第七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

健康保險法(抄)

第九號 昭和何年何月何日交付

官職 氏名

府縣印

保險院

健康保險法施行規則

様式第二號 備考

本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス

一 被保險者證ノ記號及番號ノ通知ヲ受ケザル被保險者ニ付テハ一被保險者證ノ記號及番號「欄」ニ其ノ被保險者ノ生年月日及男女別ヲ記載スベシ

二 地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スベキモノトス故ニ届出者ニ於テ空欄ノ儘ト爲シ置クベシ

三 第四條ノ規定ニ依ル届出ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ「備考」欄ニ記載スベシ

四 「標準報酬」欄ハ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スベキモノトス故ニ届出者ニ於テ空欄ノ儘ト爲シ置クベシ

五 「工場、事業場所」欄ノ「名稱」及「所在地」欄ニハ工場又ハ事業場ノ名稱及所在地ヲ記載スベシ

六 ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱及所在地ヲ記載スベシ

四尺三

様式第二號ノ二

第何號	何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何何番地 何(何會社)	
	昭和何年度	何々々 (款) 何々々 (項)
督	一 金 何 程 昭和何年何月分保險料 督促手數料	一 金 貳拾錢 督促手數料
促	一 納期限ノ翌日ヨリ保險料額百圓ニ付一日參錢ノ割合ニ依ル金額 延 滞 金	一 納期限迄ニ保險料及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ指定期限ヲ過ギ完納セザルトキハ直ニ其ノ財產差押ノ處分ヲ爲スベシ
狀	右昭和何年何月何日限リ日本銀行本店(日本銀行何支店)(日本銀行何代理店)(何道府縣廳又ハ廳府縣何健康保險出張所)(何健康保險組合事務所)ヘ納付スベシ	
督	歳入徵收官 官 氏 名 印 何健康保險組合 理事長 氏 名 印	

備考

一 延滞金ヲ徵收セザルモノニ在リテハ
 一 納期限ノ翌日ヨリ保險料額百圓ニ付一日參錢ノ割合ニ依ル金額延滞金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ指定期限ヲ過ギ完納セザルトキハ直ニ其ノ財產差押ノ處分ヲ爲スベシ

二 記載セザルモノトシテ日本銀行ニ納付スベシ

三 保險料以外ノ徵收標準ノ督促狀ハ本様式

様式第二號ノ三

(表面)

第何號

健康保險徵收金滯納者

財產差押證票

縣 廳 印 府

(裏面)

何道府縣廳又ハ廳府縣何健康保險出張所

官 職 氏 名

(表面)

(裏面)

備考

本證ハ縦約八種横約五種トシ厚キ紙ヲ用フベシ

様式第三號 削除

健康保險法施行規則

被保險者
證ノ記號

被保險者資格取得屆 昭和 年 月 日現在

工場、事業場
又ハ事務所

(所在地)

(種類)

様式第四號

被保險者 氏名	性別	生年月日	業務 種別	資格取得 年月日	賃金、給料又ハ俸 給	第 一 項					標準報酬 日額	備考	
						第一號	第二號	第三號	第四號	第五號			
男	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
女	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
男	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
女	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
男	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
女	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
男	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		
女	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給	円	円	円	円	円	円		

昭和 年 月 日

住所又ハ所在地

事業主 氏名又ハ名稱

備考

本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
 「被保險者證ノ記號」欄ニハ新ニ健康保險法ノ適用アリタル工場、事業場又ハ事業ニ在リテ
 ハ「新規」ト記載スベシ
 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ
 「男女別」欄ノ「男女」欄ハ被保險者男子ナルトキハ「女」ノ文字ヲ、女子ナルトキハ「男」
 ノ文字ヲ抹消スベシ
 「業務ノ種別」欄ニハ被保險者ガ工場、事業場又ハ事業ニ於テ從事スル業務ノ種別ヲ記載ス
 ベシ例ヘハ紡績工場ニ於テハ「紡績」、織物工場ニ於テハ「織物」、製糖ニ於テハ「製糖」、石炭
 鑛山ニ於テハ「採炭」又ハ支柱、運輸事業ニ於テハ「運輸」ト記載スルガ如シ
 「標準報酬」欄ハ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スベキモノトス故ニ届出者ニ於テ空
 欄ノ儘ト爲シ置クベシ
 被保險者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ該當事項ヲ
 「備考」欄ニ記載スベシ
 資格取得前被保險者タリシ者ニ付テハ最後ノ被保險者タル地方長官又ハ健康保險組合ノ名
 稱、事業主ノ氏名及住所又ハ名稱及所在地ヲ「備考」欄ニ記載スベシ但シ健康保險法第二十
 條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ者ニ付テハ「備考」欄ニ記載スベシ
 被保險者タリシ者ニ付テハ「備考」欄ニ記載スベシ
 タル場合ニ於テハ其ノ旨及給付ノ種類並ニ其ノ給付ガ療養ノ給付又ハ傷病手当金ノ支給ナ
 ルトキハ其ノ傷病名ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
 資格取得前被保險者タリシ者ニ付テハ其ノ傷病名ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
 未治愈ノ傷病アル者ニ在リテハ其ノ傷病名ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
 第十一條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ「備考」欄ニ記載スベシ
 ガ健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ「備考」欄ニ記載スベシ
 ル被保險者ト爲リタルモノナルトキハ「備考」欄ニ記載スベシ
 ヨリ法第十五條ヘ「ト」ヲ付シ「備考」欄ニ記載スベシ
 本様式ニ定ムル事項ノ外健康保險組合ニ於テ必要アリト認ムル事項ハ別ニ欄ヲ設ケテ之ヲ
 記載セシムルコトヲ得

被保險者資格喪失届

様式第五號

氏名	工場、事業場 又ハ事務所	(名稱)		(所在地)		喪失原因	備考
		被保險者 證記號及番號	資格喪失日	喪失日	格原		

昭和 年 月 日 住所又ハ所在地

事業主 氏名又ハ名稱

備考
一、本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
二、資格喪失原因「罷」ハ其ノ原因ガ事業ノ廢止又ハ休止ニ因
ル解雇ナルトキハ「解雇」健康保險法第十九條第一項ノ認
可ナルトキハ「任意包括喪失」職員健康保險法第十九條ノ
認可ナルトキハ「撰擇包括喪失」常備ガ臨時雇ト爲リタル
モノナルトキハ「臨時雇」死「ナルトキハ」死」ト記載シ
其ノ他之ニ準ズベシ
三、資格喪失ノ際繼續シテ保險給付ヲ受クル爲又ハ其ノ他ノ事
由ニ因リ被保險者證ヲ添付スルコト能ハザルモノニ付テハ
其ノ事由ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
四、「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備
考六ニ準ズベシ

様式第六號

(第一面)

何第何號

被 保 險 者 證

何 某

(男女) 何年何月生

昭和何年何月何日資格取得

業務ノ種別
何々

工場、事業場又ハ事務所ノ名稱
何々

工場、事業場又ハ事務所ノ所在地
何々

昭和何年何月何日交付

何 廳 府 縣 團
(何健康保險組合團)

名	氏	所	住

自 署

療養給付記録(其ノ二)

傷病名	開始日	終了日	終了事由	備考	認印

(第三面)

療養給付記録(其ノ一)

傷病名	開始日	終了日	終了事由	備考	認印

(第二面)

注意事項

- 一 此の證は健康保險の被保險者であるといふ證であるから大切に持つてゐなければなりません。
- 二 療養を受けるときは此の證を醫師や齒科醫師に渡さなければなりません。醫師や齒科醫師は療養が終る迄此の證を預つてゐます。萬一其の間に他の疾病や負傷の爲に他の醫師や齒科醫師からも療養を受けなければならぬときは此の證を渡してある醫師や齒科醫師に其の手續をお聞きなさい。
- 三 療養は一の病氣や負傷に付いて受給開始日から百八十日を過ぎたならばその疾病や負傷に付いてその後療養を受けられませんが、然し結核性疾病に付いては豫め道府縣廳（東京府では警視廳）（組合）の認定を受けて一年迄療養を受けることが出来ます。
- 四 被保險者の資格がなくなつたとき又は轉勤したときは五日以内に此の證を事業主に返さなければなりません。しかし資格がなくなつても引續き給付を受けてゐる者は

其の給付を受けなくなつてから五日以内に此の證を直接道府縣廳（東京府では警視廳）（組合）に返すことになつてゐます。

- 右の期間に事業主や道府縣廳（東京府では警視廳）に此の證を返さない者は五十圓以下の罰金か料料の處分を受けます。
- 五 被保險者の資格がなくなつた者は此の證を持つてゐても療養を受けられません。虚を言つて療法を受けた者は詐欺罪として十年以下の懲役の處分を受けます。
- 六 此の證に記載欄がなくなつたり此の證が毀損したときは直に道府縣廳（東京府では警視廳）（組合）に差出して代りの證を受けなければなりません。また此の證が滅失したときは直に其のことを道府縣廳（東京府では警視廳）（組合）に届けなければなりません。
- 七 此の證の第一面に書いてある事項が變つたならば直に事業主に差出して訂正して貰ひなさい。
- 八 此の證の「自署」と書いてある欄には自分の住所と氏名とを自分でお書きなさい。若し書くことが出来なければ他人に書いて貰つて捺印を押しなさい。尙此の欄に書

いた住所すまひや氏名なまへが變つたならば直すぐに訂正かきなほしなさい。

十 一年以上被保險者である人は其の世帯員せたいいんが入院又は一回拾圓以上の處置手術しよらしゆじゆつを受けた場合に其の半額を補給金として受けられます。それには豫め道府縣廳とくふけん（東京府では警視廳けいし）（組合）の承諾ゆるしを受けてから治療ちりようすることが必要ひつようであります。

備考

一 本證ハ各面ノ大サヲ縦約十五糎、横約十糎トシ厚キ紙ヲ用ヒ之ヲ左圖ノ如クニツ折ト爲スベシ



二 「何第何號」トアルハ被保險者臺帳ノ記號及番號ヲ記載スルモノトス

二ノ二 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ

三 第二面及第三面ノ事項ハ被保險者證ヲ保管スル保險醫ニ於テ其ノ被保險者證返還ノ際記載スルモノトス但シ療養費支給ノ場合ニ於テハ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スルモノトス

四 第二面及第三面ノ事項ノ記載ニ付テハ左ニ依ルベシ

イ 齒ニ付療養ノ給付ヲ爲シタル場合ニ於テハ患齒ノ部位ヲモ「傷病名」欄ニ記載スベシ

ロ 保險醫處方箋ヲ交付シタルトキハ其ノ使用期間ト診療期間トハ之ヲ通算シテ記載スベシ

ハ 「開始日」欄ニハ療養ノ給付ヲ開始シタル年月日ヲ記載スベシ

ニ 「終了日」欄ニハ療養ヲ終リタル年月日ヲ記載スベシ

ホ 「終了事由」欄ニハ治療、期間滿了、死亡等ノ別ヲ記載スベシ

ヘ 「認印」欄ニハ本事項ノ記載ヲ爲シタル保險醫捺印スベシ但シ療養費支給ノ場合ニ於テハ廳府縣又ハ健康保險組合ノ係員捺印スベシ

ト 保險醫變更ノ爲被保險者證ヲ返還スル場合ニ於テ保險醫其ノ發行シタル療養證明書ノ未ダ返納ナキモノアルトキハ其ノ療養證明書ヲ發行シタル數及年月日ヲ「備考」欄ニ記載スベシ

チ 療養費ノ支給ニ在リテハ「備考」欄ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

五 被保險者證ヲ再交附スル場合ニ於テ其ノ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ現ニ療養ノ給付健康保險法施行規則

ヲ受クルトキハ其ノ疾病又ハ負傷ニ付療養ノ給付ヲ開始シタル年月日ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スベシ

六 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテ交付スベキ被保險者證ハ工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地ヲ抹消シ且第一面ノ餘白ニ健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ナル旨竝其ノ住所及資格喪失豫定年月日（引續キ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十一日目ノ日）ヲ朱書シテ之ヲ交付スベシ

七 健康保險組合ニ於テハ本様式ニ依ラザルコトヲ得但シ第一面ノ所定事項ヲ省略スルコトヲ得ズ

様式第七號

昭和何年度何健康保險組合收入支出豫算書

收入

收入 豫算高

一金

又ハ

一金

一金

支出

支出 豫算高

一金

又ハ

經常部 豫算高
臨時部 豫算高

一金

合計

差引

昭和何年度何健康保險組合收入支出豫算

收入

科 款	項 目	豫算額 円	種 目	豫 算		附 記
				本年度 豫算額 円	前年度 豫算額 円	
一 健康保險收 入	一 保 險 料		一 何々			
	二 國庫負擔金 收入		二 何々			
			一 何々			
			二 何々			
			一 何々			
			二 何々			
			一 何々			
			二 何々			
			一 何々			
			二 何々			

健康保險法施行規則

收 入 合 計						七 雜 收 入			六 何 々				
			三 何 々	二 利 用 料		一 利 子		一 何 々					
		二 何 々	一 何 々		一 何 々		一 何 々		二 何 々	一 何 々			

	五 寄 附 金		四 組 合 債		三 繰 入 金		二 繰 越 金		
	一 寄 附 金		一 組 合 債		一 準 備 金 繰 入		一 前 年 度 繰 越 金		三 徵 收 金
		一 何 々		一 何 々		一 何 々		一 何 々	

科目	款	項目	預算額		種目	本年 預算額 円	前年 預算額 円	增減 円	附記
			一俸給	二諸給					
			一何々	二何々					
	一	俸給							
		二	諸給						
		三	需用費						
					二何々				
					一何々				

二組合會費		一諸給	二需用費	三雜費	四雜費
一何々	二何々				

健康保險法施行規則

			六組合債費				五保險施設費			四補給金			六出產手當金		
二利		一元金償還					一保險施設費			一補給金					
子															
	一何々			二何々	一何々							一何々			

									三保險給付費						
										五助産費	四分娩費		三埋葬諸費	二傷病手當金	一療養諸費
	一何々			一何々	二何々	一何々	一何々	二何々	一何々						

支	出	合	計
---	---	---	---

備考

- 一 豫算ハ必要アルトキハ經常、臨時ノ二部ニ大別シテ之ヲ編製スルコトヲ得
- 二 「増減」欄ノ減ハ朱書ト爲シ又ハ△印ヲ附スヘシ
- 三 「附記」欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ明細ニ記載スヘシ
- 四 病院費又ハ産院費ハ保險給費中ニ項ヲ設ケテ記載スルモ妨ケス
- 五 追加豫算ノ場合ニ於テハ「豫算額」トアルヲ「追加豫算額」、「本年度豫算額」トアルヲ「追加豫算額」、「前年度豫算額」トアルヲ「既定豫算額」、「増減」トアルヲ「増」ト爲スヘシ
更正豫算ノ場合ニ於テハ「豫算額」トアルヲ「更正豫算額」、「本年度豫算額」トアルヲ「更正豫算額」、「前年度豫算額」トアルヲ「既定豫算額」ト爲スヘシ
- 六 決算ノ場合ニ於テハ「豫算書」トアルヲ「決算書」、「豫算高」トアルヲ「決算高」、「豫算」トアルヲ「決算」、「豫算説明」トアルヲ「決算説明」、「豫算額」トアルヲ「決算額」、「本年度豫算額」トアルヲ「決算額」、「前年度豫算額」トアルヲ「豫算額」、「増減」トアルヲ「過不足」ト爲シ「附記」欄ニハ決算額ノ豫算額ニ對スル過不足ノ事由ヲ記載スヘシ
差引殘金アルトキハ準備金ニ積立テタル額ト翌年度ニ繰越シタル額トニ區別シ内譯トシテ記載スヘシ
- 七 経續費ヲ設ケタル場合ニ於テハ別ニ年度割表ヲ添附スヘシ

八 延長給付ニ要スル經費ヲ豫算ニ計上シタル場合ニ於テハ豫算説明附記欄ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

様式第八號

昭和何年度事業報告書

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何番地
何 健 康 保 險 組 合

一 事業概況

本項ニハ事業ノ狀況ノ大體ヲ簡單ニ記載スベシ

二 事務所

本項ニハ事務所ノ所在地ヲ記載スベシ(主タル事務所ト從タル事務所トヲ有スル組合ニ在リテハ之ヲ區別シテ記載スルコト)

三 組合員

(一) 事業主數

前年度末現在	本年度中増	本年度中減	本年度末現在
--------	-------	-------	--------

(二) 被保險者數

イ 異動及現在

健康保險法施行規則

種別	強制被保險者		任意包括被保險者		合計
	職員	其ノ他	職員	其ノ他	
前年度末現在					
本年度中増					
本年度中減					
本年度末現在					

備考

- 一 様式中強制被保險者トアルハ健康保險法第十三條ノ規定ニ依ル被保險者、任意包括被保險者トアルハ健康保險法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ謂フ以下之ニ倣フ
- 二 組合ノ設立アル事業ニ以上ノ組合ニ在リテハ事業毎ニ之ヲ別表ト爲スベシ此場合ニ於テハ事業ノ名稱ヲ附記スベシ
- 三 組合ノ設立アル事業ノ主要製品ノ概目又ハ作業ノ内容ヲ附記スベシ
- 四 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者アルトキハ種別欄ニ任意繼續被保險者ノ欄ヲ設

ケ本様式ニ從ヒ其ノ數ヲ記載スベシ
 口 標準報酬等級別

種別	強制被保險者			任意包括被保險者			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
級一第									
級二第									
級三第									
級四第									
級五第									
級六第									
級七第									
級八第									
級九第									
級十第									
級十一第									
級十二第									
級十三第									
級十四第									
級十五第									
級十六第									
計									

備考

- 一 年度末現在ニ依ルベシ
- 健康保險法施行規則

出產手當金	補助金	合計

備考

- 一 様式中業務上トアルハ疾病又ハ負傷ガ業務上ノ事由ニ因ルモノ、業務外トアルハ疾病又ハ負傷ガ業務上ノ事由ニ因ラザルモノヲ謂フ
- 二 健康保険法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ分ハ×印ヲ附シ區別シテ之ヲ記載スベシ
- 三 同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付數回ニ分チテ給付ヲ爲シタル場合ト雖モ此ノ數回分ヲ合シテ一件トシ尙療養費又ハ傷病手當金ニシテ二以上ノ疾病又ハ負傷ニ付通ジテ支給シタルモノニ在リテハ業務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ト業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷トノ別ニ依リ各之ヲ通ジテ一件トシ記載スベシ一ノ分娩ニ付數回ニ分チテ給付ヲ爲シタル場合ト同ジ
- 四 組合ガ病院、産院其ノ他ノ設備ヲ有スル場合ニ於テ其ノ設備ニ依リ療養ノ給付、産院收容又ハ助産ノ手當ヲ爲シタルトキハ之ニ要シタル費用額ハ見積額ヲ記載スベシ
- 五 療養ノ給付ノ費用額ヲ業務上ト業務外又ハ男ト女トニ區別シ難キモノアルトキハ其ノ總額ノミヲ記載スルモ妨ゲナシ
- 六 前年度ヨリ繰越シタル給付ノ件數ヲ「備考」欄ニ記載スベシ

(二) 療養ノ給付及傷病手當金ノ期間別件數

種別	療養ノ給付										
	疾病					負傷					
	計	女	男	計	女	計	女	男	計	女	男
三 日 以 下											
七 日 以 下											
十 五 日 以 下											
三 十 日 以 下											
六 十 日 以 下											
九 十 日 以 下											
百 二 十 日 以 下											
百 五 十 日 以 下											
百 八 十 日 以 下											
計											
備考											

合計	何々			何々		
	計	女	男	計	女	男

備考

- 一 健康保険法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ分ハ之ヲ算入セザルモノトス
- 二 埋葬料又ハ埋葬費ヲ支給シタルモノニシテ療養ノ給付ヲ爲サザルモノハ其ノ件數ヲ死亡原因別(本表ノ傷病ノ類別ニ準ズルコト)ニ分チ備考トシテ記載スベシ

(四) 保険料

調定額	収入済額	収入未済額	保険料率 (標準報酬日 額一圓ニ付)	
			被保険者	事業主
円	円	円		

七 療養機關

本項ニハ病院、産院、醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦其ノ他療養ノ機關ニ關スル事項ヲ記載スベシ

八 保健施設

本項ニハ健康保険法第二十三條ノ規定ニ依リ施設シタル事項及其ノ成績ノ概要ヲ記載スベシ

九 積立金

種別	前年度末現在額	本年度積立額	本年度處分額	本年度末現在額
	円	円	円	円
準備金				
何積立金				
何積立金				

健康保険法施行規則

備考

事業報告書ニ記載スベキ事實ノ屬スル年度ノ決算ノ結果準備金ニ積立ツベキ豫定額ヲ備考トシテ記載スベシ

十組 合 債

前年度末現在額	本年度借入額	本年度償還額	本年度末現在額
円	円	円	円

十一 其ノ他重要ナル事項

本項ニハ組合ニ於テ重要ト認メタル事項ヲ記載スベシ
右及報告候也

昭和何年何月何日

理事長 何

某

様式第九號

何健康保險組合財産目録

昭和何年何月何日現在

種 別	數 量	金額又ハ價格	備 考
銀行預金		円	

其ノ他ノ財産		準備金				金 員	
器具及機械	建物	土地	合 計	有價證券		何々	郵便貯金
				何々	計		
				國債證券	計		
				地方債證券	何々		
					計		

健康保險法施行規則

總計	何々
----	----

備考

- 一 有價證券ノ「金額又ハ價格」欄ニハ額面額ヲ記載シ尙其ノ種類及時價ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ
- 二 土地、建物又ハ器具及機械ノ「金額又ハ價格」欄ニハ時價ヲ記載シ尙土地及建物ハ其ノ用途ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ
- 三 積立金アル場合ニ於テハ「準備金」ノ欄ニ準シ別ニ一欄ヲ設クヘシ

様式第十號

昭和何年何月分事業狀況報告

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何何番地

何健康保險組合

一 標準報酬等級別被保險者數

第一級	第二級	第三級	第四級	第五級	第六級	第七級	第八級	第九級	第十級	第十一級	第十二級	第十三級	第十四級	第十五級	第十六級	計

備考

月末現在ニ依ルベシ

二 保險給付狀況

種別	件數	日數	備考	療養ノ給付			療養費	傷病手当金	埋葬料	埋葬費	分娩費	産院收容	助産ノ手当
				醫、療	看、護	移、送							

出 産 手 當 金	
補 給 金	

備考

一 健康保険法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ分ハ×印ヲ附シ區別シテ之ヲ記載スベシ

二 療養費、傷病手當金、埋葬料、埋葬費、分娩費、出産手當金及補給金ニ在リテハ事故發生ノ日ノ屬スル月ノ如何ニ拘ラズ現ニ之ガ支拂ヲ爲シタル月ノ分ノ報告ニ記載スベシ

三、同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付數回ニ分チテ給付ヲ爲シタル場合ト雖モ此ノ數回分ヲ合シテ一件トシ尙療養費、傷病手當金又ハ補給金ニシテ二以上ノ疾病又ハ負傷ニ付通ジテ支給シタルモノニ在リテハ之ヲ通ジテ一件トシ記載スベシ一ノ分娩ニ付數回ニ分チテ給付ヲ爲シタル場合亦同ジ

三 收支狀況

收入

種 別	本年度豫算額	本月收入額	本年度收入累計額
何々	円	円	円
計			

支出

種 別	本年度豫算額	本月支出額	本年度支出累計額
何々			
何々			
計			

健康保険法施行規則

種 別	本年度豫算額	本月支出額	本年度支出累計額
何々	円	円	円
何々			
計			

一時借入金等

種別	本月借入額	本月返還額	本月末現在額
一時借入金	円	円	円
準備金繰替使用			
前年度收支残金一時充當			
計			

備考

- 一 四月分及五月分ノ收支状況ニ付テハ其ノ年度ニ屬スル分ト前年度ニ屬スル分トハ之ヲ別表ト爲スベシ此ノ場合ニ於テハ所屬年度ヲ附記スベシ
 - 二 収入又ハ支出ノ「種別」欄ハ豫算ノ款項ヲ記載スベシ
 - 三 収入ノ調定ヲ爲シタルモ未ダ收入セザル金額並支拂ノ請求ヲ受ケタルモ未ダ支出セザル金額及支拂ノ請求ヲ受ケザルモ支拂義務ノ既ニ發生シタル金額（醫師會ニ對スル診療報酬ノ如シ）ヲ備考トシテ記載スベシ
 - 四 過年度支出ノ科目ヨリ支出シタル金額ニ付テハ其ノ種類ヲ備考トシテ記載スベシ
- 四 保健施設
- 本項ニハ健康保險法第二十三條ノ規定ニ依リ施設シタル事項及其ノ成績ノ概要ヲ記載スベシ

五 議員及理事ノ異動

本項ニハ就職又ハ退職若ハ死亡シタル議員又ハ理事ノ數ヲ選定議員若ハ互選議員又ハ選定議員タル理事若ハ互選議員タル理事ニ區別シ記載スベシ尙月末現在ニ於テ缺員數アルトキハ其ノ數ヲ同様ニ區別シ記載スベシ

様式第十一號

組合原簿

組合ノ名稱其ノ他

名 稱	設 立 年 月 日	事 務 所 所 在 地	組 合 ノ 設 立 ア ル 事 業	工 場 、 事 業 場 又 ハ 事 務 所 ノ 名 稱 、 所 在 地 及 種 類	要 摘

氏名	生年月日	住居	事務所	就任年月日	種別	任期	摘要	定員			
								計	被保険者中ヨリ互選シタル者	事業主ノ選定シタル者	
								年	人	人	人

事業主タル組合員

議員

氏名	生年月日	住居	事務所	就任年月日	種別	任期	摘要	定員			
								計	被保険者中ヨリ互選シタル者	事業主ノ選定シタル者	
								年	人	人	人

理事

備考

- 一 記載事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ改訂スルト共ニ變更ノ事項及年月日ヲ「摘要」欄ニ記載スベシ
- 二 理事又ハ議員退職又ハ死亡シタルトキ、組合員其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ朱線ヲ以テ抹消シ年月日及事由ヲ「摘要」欄ニ朱書スベシ
- 三 他ノ組合ヲ合併シタルトキ又ハ組合ガ分割シタルトキハ其ノ年月日及合併又ハ分割ノ組合名ヲ「組合ノ名稱其ノ他」ノ部ノ「摘要」欄ニ記載スベシ
- 四 「理事」ノ部ノ「種別」欄ニハ事業主ノ選定シタル議員中ヨリ互選シタル者、被保険者タル議員中ヨリ互選シタル者ノ別ヲ記載スベシ「議員」ノ部ノ「種別」欄亦之ニ準ズ
- 五 理事長、理事長代理者又ハ常務理事ニ付テハ「理事」ノ部ノ氏名ノ右肩ニ「理事長」「理事長代理」又ハ「常務理事」ト記載スベシ
- 六 「理事」ノ部及「議員」ノ部ノ「任期」欄ハ「自昭和何年何月何日 至昭和何年何月何日」ノ如ク記載スベシ
- 七 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ
- 八 本様式ニ定ムル事項ノ外必要アリト認ムル事項ハ別ニ欄ヲ設ケテ之ヲ記載スルコトヲ得

様式第十二號 削除
様式第十三號

療 養 證 明 書

被保險者ノ番 記號及番	(氏名)					
	(男女別)	(生年月)				
工場、事業場 又ハ事務所	(住所)					
	(名稱)	(所在地)				
現ニ療養ヲ爲 ス傷病名及月 付開始年月日	發行年月日					
發行	何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何何番地 醫師(齒科醫師)何某 [㊟]					
本證明書ニ依 リシ療養給 付	傷病名	開始日	終了日	終了 事由	備考	認印

備考

- 一 「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」欄ノ事項ハ療養證明書ニ依リテ療養ヲ爲シタル保險醫ニ於テ其ノ療養證明書返還ノ際記載スベシ
- 二 「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」欄ノ記載ニ付テハ様式第六號備考四ノイ乃至ヘニ準ズベシ
- 三 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ

健康保險法施行規則

健康保險用

被保險者證ノ 記號及番號		處方箋	
患者 (氏名)	(年齢)	府健組稱 廳ハ保險名 轄又保ノ 所縣康合	分量
藥名		用法	
用法		用量	
使用 期間	開始昭和 年月日 終了昭和 年月日	處方年月日	昭和 年月日
保險氏印 保醫名	診療所ノ名 稱、所在醫 又ハ保險 ノ住所		

備考
一 「所轄廳府縣又ハ健康保險組合ノ名稱」欄ニハ被保險者ノ屬スル廳府縣又ハ健康保險組合ノ名稱ヲ記載スベシ
二 健康保險組合ニ於テハ本様式ニ依ラザルコトヲ得但シ被保險者證ノ記號及番號並ニ使用期間ノ開始及終了年月日ノ記載ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

工業労働者最低年齢法

大正十二年三月
法律第三十四號

改正 昭和一六年第一二號

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲クル事業ヲ謂フ

一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

省略

二
三
四
五

第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ命令ヲ以テ定ムル國民學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官應ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備付アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

工業労働者最低年齢法

第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理人ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 使用者營業ニ關シ成年人ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條 使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場代理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年勅令第五百二十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セ

工業労働者最低年齢法施行規則

大正十五年六月
内務省令第十四號

改正 昭和一六年厚生省令第一三號

第一條 工業労働者最低年齢法第二條第一項但書ノ課程左ノ通定ム

一 國民學校初等科ノ課程

二 國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程

第二條 工業労働者最低年齢法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス）

第三條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル學校名及修了年月ヲ、國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四條 工業労働者最低年齢法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

工業労働者最低年齢法施行規則

附則

本令ハ工業労働者最低年齢法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年七月一日）
 工業労働者最低年齢法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歳以上十四歳未満ノ者ニシテ尋常
 小學校ノ教科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及
 雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ
 前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
 ス

（別記様式）

第 號 昭和 年 月 日交付

社會局、廳府縣又ハ鑛山
 監督局印
 官 職 氏 名

工業労働者最低年齢法第四條

工業労働者最低年齢法第七條

際八センチメートル横十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工業臨檢票」ト
 記ス

臨時租稅措置法

（拔萃） 昭和十三年三月 法律第五十二號

改正昭和十四年第五〇號、一五年第五四號

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得稅、法人稅、田畑地租、營業稅、砂糖消費稅、織物消費稅、登録
 稅及臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

第一條ノ二 法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ
 相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過部分ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ命令ヲ以テ定
 ムル方法ニ依リ運用スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ運用金額ニ百分ノ三、六ヲ乘ジテ算出
 シタル金額ニ相當スル法人稅ヲ輕減ス

前項ノ各事業年度ノ所得及所得中留保シタル金額ハ其ノ事業年度ノ所得及資本ニ課セラルベキ法
 人稅額（前項ノ規定ニ依リ輕減スル稅額ヲ控除セザルモノニ依ル）及法人稅法第十四條ノ規定ニ
 依リ控除スベキ臨時利得稅額ヲ其ノ事業年度ノ所得及其ノ所得中留保シタル金額ノ双方ヨリ控除
 シタル殘額ニ依ル

第一條ノ三 所得稅法第五條、法人稅法第十二條及營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物產
 ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備増設ノ
 年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ増設シタル設備ニ依ル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ業務ヨリ生ズル
 所得及純益ニ付所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除ス

臨時租稅措置法

命令ヲ以テ指定スル製造方法ニ依ル物産ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ増設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造開始又ハ設備増設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ製造方法ニ依ル物産ノ製造業務又ハ其ノ増設シタル設備ニ依ル物産ノ製造業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得税、法人税及營業稅ヲ免除ス

第一條ノ四 左ニ掲グル事項ニ付テハ所得税法ニ依ル所得、法人税法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

一 命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入

二 命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出

三 命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物(工場用以外ノ建物ヲ除ク)、機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却

第一條ノ五 法人ノ各事業年度ノ所得中ニ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ四ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人稅ヲ輕減ス

個人ノ甲種ノ事業所得中ニ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ六 命令ヲ以テ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ヲ產出スル鑛業權者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該鑛業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅又ハ法

入稅ヲ輕減ス

第八條 法人又ハ個人ノ營業(個人ニ付テハ營業稅法第二條ニ掲グル營業ヲ謂フ以下同ジ)ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業稅ヲ輕減ス

第九條 營業稅ノ輕減額ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス
減少割合ガ二割五分以上三割五分未満ナルトキ 營業稅額ノ二割
三割五分以上五割未満ナルトキ 營業稅額ノ三割
五割以上七割未満ナルトキ 營業稅額ノ四割
七割以上ナルトキ 營業稅額ノ五割

第十條 法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ平均純益ニ依ル

個人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年ノ平均純益ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル個人ニ付テハ昭和十二年ノ純益ニ依ル

前二項ニ規定スルモノヲ除ク外法人又ハ個人ノ平常純益ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 營業稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業稅ヲ輕減セズ

一 法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出

臨時租稅措置法

シタル金額ヲ超ユルトキ

- 二 個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ
- 三 法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條 營業稅法第四條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付、同法第十條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法第六條及第七條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十三條ノ二 樺太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

第二十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十七條 昭和十三年分ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ稅額ヲ計算シ同年五月三十一日迄ニ之ヲ納付セシム

附則 (昭和十四年法律第五十號)

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一種所得稅、法人ノ營業收益稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本法ヲ適用ス

附則 昭和十五年法律第五十四號

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得稅及營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第一條ノ六ノ規定中分類所得稅ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ昭和十五年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛物又ハ鑛產物ニ付改正前ノ第十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ昭和十二年中ニ於ケル鑛物又ハ鑛產物ノ產出數量ノ十二分ノ三ニ相當スル數量ヲ以テ同條ニ規定スル昭和十二年中ニ於ケル產出數量ト看做ス

昭和十四年分以前ノ田畑地租、昭和十四年分以前ノ個人ノ營業收益稅及昭和十五年分以前ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

臨時租稅措置法施行規則

(拔萃)

昭和十三年四月 大藏省令第二十一號

改正 昭和十四年第一三號、一五年第一九號

第一條 法人ガ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ別表ニ掲グル事業ノ用ニ供スル設備(船舶ヲ含ム)ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テ又ハ國債證券、興業債券(臨時資金調整法第六

臨時租稅措置法施行規則

條第四項ノ規定リ依リ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アルモノニ限ル其ノ他大藏大臣ノ指定シタル有價證券ヲ取得スルニ要スル資金ニ充テタルトキハ臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ヲ輕減ス

本令ニ於テ超過留保金額トハ臨時租稅措置法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依ル法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ノ所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過部分ノ金額ヲ謂フ

第一條ノ二 法人ガ各事業年度ノ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「設備擴張留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ

第一條ノ三 法人ガ各事業年度ノ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ第一條ニ定ムル有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「證券保有留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ

前項ノ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ第一條ニ規定スル有價證券ヲ取得シタルトキハ「指定證券運用」勘定（借方勘定）ヲ設ケ他ノ財産ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第一條ノ四 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ左ノ期間内ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

一 「設備擴張留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ二年

二 「證券保有留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ六月

第一條ノ五 法人ガ前條ニ定ムル期間内ニ於テ「設備擴張留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「證券保有留保金」勘定ニ振替ヘ又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「設備擴張留保金」勘定ニ振替ヘ其ノ運用ノ方法ヲ變更セントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ振替ヘタル金額ヲ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

法人ガ「指定證券運用」勘定ヲ以テ分別計理シタル有價證券ヲ處分シ設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ支出ニ充テントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第一條ノ六 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニシテ第一條ノ四ニ定ムル期間内ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出セザリシモノアルトキハ繰入金額ニ付輕減セラレタル法人稅額中運用ノ爲ニ支出セザリシ金額ニ對スル輕減稅額ニ相當スル金額ヲ追徵ス前條第一項ノ場合ニ於テ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出セザリシ金額アルトキ亦同ジ

「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ取得シタル有價證券ヲ處分シタルトキ又ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル後直ニ之ニ代ルベキ有價證券ヲ取得セザリシトキハ繰入金額ニ付輕減セラレタル法人稅額中當該有價證券ノ取得ニ要シタル金額ニ對スル輕減稅額ニ相當スル金額ヲ追徵ス但シ其ノ處分ニ付稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ追徵稅額ハ第一條ノ四ニ定ムル期間滿了ノ日又ハ有價證券ヲ處分シ若ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル日ノ屬スル事業年度分ノ法人稅ヲ徵收スル際之ヲ徵收ス

第一條ノ十 臨時租稅措置法第一條ノ三ノ規定ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ノ免除ヲ受クベキ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ設備ノ増設ハ製造事業ニ在リテハ昭和十四年四月一日以後爲シタル設備ノ増設、採掘又ハ採取ノ事業ニ在リテハ昭和十五年四月一日以後爲シタル設備ノ増設ニシテ増設前ノ製造又ハ產出能力ニ對シ十分ノ三以上ニ相當スル製造又ハ產出能力ヲ増加シタルモノニ限ル

前項ノ規定ニ該當スル設備ノ増設ヲ爲シタル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムベキ事實アル者ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ設備ノ増設ニ付所得稅、法人稅及營業稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第一條ノ十一 臨時租稅措置法第一條ノ三ノ規定ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第十八條又ハ營業稅法第十五條若ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ増設シタル設備ニ依ル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益ト有スルトキハ其ノ増設シタル設備ニ依ル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第一條ノ十三 別表ニ掲グル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出金額(土地ニ關スル支出金額ヲ除ク)ニシテ昭和十四年四月一日以後支出シタルモノハ資本的支出ニ屬スル場合ニ於テモ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入ス

前項ノ場合ニ於テ法人ガ其ノ支出金額ヲ資産トシテ計算シタルトキハ法人ニ對スル法人稅、營業稅及臨時利得稅ノ課稅ニ關シテハ之ヲ資産トシテ計算セザリシモノト看做ス

第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ豫メ研究ノ目的及研究ヲ爲スニ要スル支出ノ詳細ヲ記載シタル書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第一條ノ十四 第一條ノ十二又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第十八條、營業稅法第十五條若ハ第十六條又ハ臨時利得稅法第十五條若ハ第十六條第一項ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ十六 臨時租稅措置法第一條ノ五第一項ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル法人ノ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム以下同ジ)外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニハ法人稅法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ

第一條ノ十七 臨時租稅措置法第一條ノ五第二項ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル個人ノ本邦外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ハ其ノ者ノ所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ甲種ノ事業所得金額ニ對スル同控除後ノ甲種ノ事業所得金額ノ割合ヲ其ノ者ノ本邦外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ本邦外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ

第一條ノ十九 臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依リ左ノ礦物ヲ指定ス
一、金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、滿俺鑛、ニッケル鑛、水銀鑛及

二、石油及石炭

第一條ノ二十 第一條ノ十六及第一條ノ十七ノ規定ハ臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル鑛業ヨリ生ズル所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ二十一 臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依リ分類所得稅又ハ法人稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條又ハ法人稅法第十八條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

附則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十四年大藏省令第十三號)

本令ハ昭和十四年法律第五十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一種所得稅、法人ノ營業收益稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本令ヲ適用ス

第二十條ノ改正規定ハ昭和十四年分鑛產稅ヨリ之ヲ適用ス

本令施行前ヨリ引續キ臨時租稅措置法第二十一條ノ改正規定ニ依リ新ニ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以内ニ第二十三條ノ改正規定ニ規定スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

附則 (昭和十五年大藏省令第十九號)

本令ハ昭和十五年法律第五十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得稅及營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第一條ノ二十及二十一ノ規定中分類所得稅ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年分以前ノ田畑地租、昭和十四年分以前ノ個人ノ營業收益稅及昭和十五年分以前ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

別表

- 一 金屬鑛業
- 二 石炭鑛業
- 三 石油鑛業
- 四 製鐵業
- 五 非鐵金屬製鍊業
- 六 輕金屬製造業
- 七 鋼船製造業
- 八 蒸汽鑛製造業

臨時租稅措置法施行規則

- 九 原動機製造業
- 十 電氣機械器具製造業但シ家庭用電氣器具製造業ヲ除ク
- 十一 採鑛、選鑛及製鍊機械器具製造業
- 十二 金屬工機械製造業
- 十三 工具及刀具類製造業
- 十四 化學工業用機械裝置製造業
- 十五 自動車及同部分品製造業但シ小型自動車及同部分品製造業ヲ除ク
- 十六 鐵道用及軌道用車輛製造業
- 十七 航空機及同部分品製造業
- 十八 軸受及鋼球製造業
- 十九 兵器及同部分品製造業
- 二十 硫酸製造業但シ乾式製鍊所ヨリ排棄セラルル鑛煙中ノ亞硫酸瓦斯ヲ回收シテ製造スルモノニ限ル
- 二十一 石炭酸製造業
- 二十二 コールタール分溜物製造業
- 二十三 代用燃料製造業
- 二十四 硝酸製造業
- 二十五 染料中間物其ノ他コールタール分溜物誘導體製造業

- 二十六 バルブ製造業
- 二十七 硫酸アンモニア製造業
- 二十八 石油精製業
- 二十九 人造石油製造業
- 三十 海運業

臨時資金調整法

昭和十二年九月
法律第八十六號

改正 昭和十四年第六八號、一五年第七〇號
一六年第一八號、第三九號

第一條 本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會（以下金融機關ト總稱ス）ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者（以下之ヲ證券引受業者ト稱ス）有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本

臨時資金調整法

法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第四條 命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ

命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一 第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ

二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第四條ノ二 命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付

政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 金融機關ヨリノ借入金

二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金

三 本法ニ依リ設立又ハ資本増加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金

四 本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

第五條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條、第四條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做

ス

第六條 日本興業銀行ハ二十億圓ヲ限リ日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得

日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ額面金額二十億圓ヲ限リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第七條 金資金ハ金資金特別會計法第四條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第八條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第九條 命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條 政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル

會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲臨時資金調整委員會ヲ置ク

臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 第二條、第四條、第四條ノ二、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審查委員會ノ議ヲ經ベシ

臨時資金審查委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金十億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十圓以下トス

第十四條 貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ三十五年内ニ毎年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ三百倍以内ノ割増金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ割増金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十四條ノ二 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金五億圓ニ達スル迄報國債券ヲ發行セシムルコトヲ得

報告債券ハ無記名トシ券面金額ヲ十圓以下トス

第十四條ノ三 報國債券ハ無利子トシ券面金額ヲ以テ之ヲ買出スモノトス

第十四條ノ四 報國債券ハ發行ノ翌年ヨリ十年内ニ之ヲ償還スベシ

報國債券ニハ毎年一回以上抽籤ヲ以テ割増金ヲ附スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定

ム

第十四條第三項ノ規定ハ報國債券ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ五 報國債券ノ所有者ガ長期ニ互リ郵便官署又ハ日本勸業銀行ニ其ノ債券ノ保管ヲ委託

シタル場合ニ於テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ當該債券ニ割増金ヲ附スルコトヲ得

第十五條 復興貯蓄債券法第三條ノ規定ハ蓄貯債券ニ、同法第六條、第七條第一項及第八條並ニ日

本勸業銀行法第三十五條ノ二乃至第三十五條ノ四、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニハ之ヲ適用セズ

第十六條 政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號

ニ掲グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

一 資金ノ需給及移動ニ關スル事項

二 有價證券ニ關スル事項

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

五 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル事項

第十六條ノ二 政府ハ第五條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八

條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ催告又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者
三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

第十九條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以

下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十二年勅令第四百九十二號ヲ以テ第十一條ノ規定ハ昭和十二年九月十五日ヨリ施行

昭和十二年勅令第五百二十六號ヲ以テ第一條乃至第十條及第十二條乃至第二十一條ノ規定ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ施行

本法ハ第十四條及第十四條ノ三乃至第十五條ヲ除キ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

臨時資金調整法施行令

昭和十二年九月
勅令第五百二十七號

改正 昭和一三年第五九〇號、一四年二二〇號

第一條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亘ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ
(第二項略)

第二條 臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額五萬圓以

臨時資金調整法施行令

上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地内ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條 第二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

- 一 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付ヲ爲ストキ
- 二 行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ
- 三 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

行政官廳前項ノ認可又ハ許可ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前二條ノ主務大臣ニ協議スベシ

第四條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金

（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社
- 二 臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社
- 三 目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ掲グル會社ニ付認可、許可又ハ免許ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第五條 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本増加、合併

又ハ目的變更ハ左ニ掲グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本増加、合併又ハ目的變更
- 二 資本増加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本増加又ハ合併

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條 臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ會社ハ資本金二十萬圓以上ノ會社トス但シ同項ニ掲グル事項ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條ノ二 臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ限度ハ五萬圓トス但シ第一條第二項ニ掲グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノニ付テハ其ノ限度ヲ三萬圓トス

第六條ノ三 臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受クルコトヲ要セザル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

- 一 北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、市町村學校組合、

町村學校組合及學區

五六六

- 二 當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル者又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス爲
 - 三 第四條第一項各號ノ一ニ該當スル會社又ハ第五條第一項但書ニ該當スル資本増加ヲ爲シタル會社ニシテ第一回拂込株金又ハ出資金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ
 - 四 第六條第一項但書ニ該當スル會社ニシテ第二回以後ノ拂込株金又ハ社債收入金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ
- 行政官廳前項第二號ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ大藏大臣及商工大臣ニ協議スベシ

第七條 臨時資金調整法第二條、第四條又ハ第四條ノ二ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付必要ナル事項ハ大藏大臣商工大臣及農林大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條 臨時資金調整法第六條ノ規定ニ依ル保證ヲ爲スニ付必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條 左ニ掲ゲル事業ヲ營ム會社ハ大藏大臣及商工大臣ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ

- 第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖モ資本ヲ増加シ又ハ商法第二百零條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得
- 一 航空機製造事業
- 二 金屬工機械製造事業
- 三 兵器及兵器部分品製造事業

四 鋼船製造事業

五 製鐵事業

六 產金事業

七 石炭鑛業

八 石油鑛業、石油精製業及石油輸入業

第十條 臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證券ヲ携帯スベシ

第十一條 第一條及第二條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第四條第一項、第五條第一項及第六條第一項ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第六條ノ二ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス

大藏大臣銀行、信託會社又ハ證券引受業者ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ニ、商工大臣保險會社ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

附則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行細則

昭和十二年九月
大藏、農林、商工省令

改正 昭和十二年一月三日、一三年八月一五日、一四年四月二三日

五六八

(本文略)

從業者移動防止令

昭和十五年十一月
勅令第七百五十號

第一條 從業者移動防止ノ爲ニスル國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ雇入及使用ノ制限竝ニ解雇ニ關スル命令ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ指定從業者ト稱スルハ年齢十四年以上六十年未滿ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

- 一 厚生大臣ノ指定スル事業ヲ行フ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ於テ引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ厚生大臣ノ指定スル勞務者(以下指定勞務者ト稱ス)トシテ使用セラルル者
- 二 前號ノ事業ヲ行フ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ於テ引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ指定勞務者トシテ使用セラレ本令施行後ニ於テ其ノ雇傭ヲ終了シ且其ノ雇傭ヲ終了シタル日ヨリ一年ヲ經過セザル者

三 引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ厚生大臣ノ指定スル技術者(以下指定技術者ト稱ス)トシテ使用セラルル者

四 引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ指定技術者トシテ使用セラレ本令施行後ニ於テ其ノ雇傭ヲ終了シ且其ノ雇傭ヲ終了シタル日ヨリ一年ヲ經過セザル者

第三條 何人ト雖モ工場若ハ事業場ニ於テ使用スル爲又ハ指定技術者トシテ使用スル爲前條第一號又ハ第三號ノ指定從業者ニ對シ自ラ又ハ他人ヲシテ其ノ被傭者タルコトヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ズ他人ノ工場若ハ事業場ニ於テ使用セシムル爲又ハ指定技術者トシテ使用セシムル爲他人ノ被傭者タルコトヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコト亦同ジ

第四條 工場若ハ事業場ニ於テ使用スル爲又ハ指定技術者トシテ使用スル爲他人ヲ雇入レントスルトキハ豫メ其ノ者ガ指定從業者ナルヤ否ヲ確認スルコトヲ要ス但シ職業紹介所ノ紹介ニ依リ雇入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

指定從業者工場若ハ事業場ニ於テ使用セラルル爲又ハ指定技術者トシテ使用セラルル爲雇入レントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ其ノ前歴ニ關スル事項ヲ職業紹介所長ニ報告スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ報告ハ職業紹介所ノ紹介ニ依ラズシテ雇入レントスル場合ニ在リテハ雇入レントスル者ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第五條 工場若ハ事業場ニ於テ使用スル爲又ハ指定技術者トシテ使用スル爲雇入レントスル者ガ指定從業者ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ雇入ルル

從業者移動防止令

五六九

コトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 何人ト雖モ勞務供給契約ニ基キ工場又ハ事業場ニ於テ指定従業者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條 職業紹介所長第五條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虚偽ノ事實アリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 第五條ノ規定ニ違反シテ指定従業者ヲ雇入レタル者アルトキハ職業紹介所長ハ其ノ者ニ對シ其ノ指定従業者ヲ解雇スベキコトヲ命ズルコトヲ得前條ノ規定ニ依リ認可ノ取消ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九條 地方長官従業者ノ移動ヲ防止スル爲必要アリト認ムルトキハ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ於テ指定技術者又ハ指定勞務者ヲ雇傭スル者ニ對シ指定従業者以外ノ従業者ノ雇入ノ方法ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第十條 何人ト雖モ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第五條又ハ第六條ノ規定ニ依ル制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條 厚生大臣、地方長官又ハ職業紹介所長必要アリト認ムルトキハ指定従業者ノ雇入、使用又ハ解雇ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ關係人ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十二條 厚生大臣、地方長官又ハ職業紹介所長必要アリト認ムルトキハ指定従業者ノ雇入又ハ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ指定従業者ヲ雇入レ若ハ雇入レントスル者又ハ使用シ若ハ使用セントスル者ノ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十三條 第三條乃至第五條、第七條、第十條及第十一條ノ規定ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ於テ指定従業者ヲ吏員トシテ採用スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本令ハ國又ハ道府縣ニ於ケル従業者ノ雇入又ハ使用ニハ之ヲ適用セズ

第十五條 本令ハ學校卒業者使用制限令及青少年雇入制限令ノ適用ヲ妨ゲズ

第十六條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシテハ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ職業紹介所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市長又ハ郡守（澎湖應ニ在リテハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トシ職業紹介所トアルハ朝鮮ニ在リテハ國トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

附則

本令ハ昭和十五年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

従業者雇入制限令ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本令施行後ニ從業者移動防止令

行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本令施行ノ際現ニ從業者雇入制限令第一條第二號又ハ第四號ニ該當スル者ニシテ本令施行前ニ於テ其ノ雇傭ヲ終了シタルモノハ其ノ雇傭セラレタル場所ガ第二條第一號ノ事業ヲ行フ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ該當スル場合又ハ其ノ者ガ指定技術者ニ該當スル場合ニ於テハ從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業業者ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ雇傭終了後一年間、其ノ他ノ者ニ在リテハ其ノ雇傭終了後六月間之ヲ本令ノ規定ニ依ル指定從業者ト看做ス

昭和十五年十一月十五日
厚生省告示第三百五十六號

從業者移動防止令第二條第一號ノ事業ヲ左ノ通指定ス

- 一 採鑛業
- 二 金屬工業
- 三 機械器具工業（船舶車輛製造業ヲ含ム）
- 四 化學工業（化學纖維製造業ヲ含ム）
- 五 ガス業及電氣業

（以下略）

昭和十五年十一月十五日
厚生省告示第三百五十七號

從業者移動防止令第二條第一號ノ勞務者ヲ左ノ通指定ス

- 一 職工（製圖手、企畫手ヲ含ム）

- 二 鑛夫
 - 三 電工（電力電機工、電力電路工、通信電機工、通信電路工以外ノモノヲ除ク）
 - 四 汽罐士
- （以下略）

昭和十五年十一月十五日
厚生省告示第三百五十八號

從業者移動防止令第二條第三號ノ技術者ヲ左ノ通指定ス

- 一 鑛山技術者（採炭、選炭、採鑛、選鑛、探油又ハ探鑛ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）
- 二 冶金技術者（金屬ノ製鍊、合金、熱處理又ハ其ノ他ノ冶金ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）
- 三 電氣技術者（電動機、發電機、變壓器等ノ電氣機械器具、電氣計器、電氣照明用機械器具、電線若ハ電纜ノ製作、取附、修繕若ハ取扱又ハ發變電若ハ送配電ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）
- 四 電氣通信技術者（有線電信電話機、無線電信電話機（放送用ヲ含ム）、電視裝置、電寫裝置、電氣信號機等ノ電氣通信用機械器具ノ製作、取附、修繕又ハ取扱ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）
- 五 機械技術者（陸、船及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、從業者移動防止令

- 計器、光學機械、精密機械、兵器、車輛、自動車、起重機若ハ其ノ他ノ機械器具ノ製作、修繕若ハ取扱、鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ製作若ハ修繕又ハ金屬ノ壓延、鑄造、鍛造等ノ加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者)
- 六 航空機技術者(航空機ノ機體又ハプロペラノ製作ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者(航空機用原動機製作ニ從事スル者ヲ除ク))
- 七 造船技術者(造船ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者)
- 八 化學技術者(有機化學、無機化學、電氣化學、高壓化學等ノ化學ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者)
- 九 木工技術者(製材、木工品ノ製造又ハ機械類ノ木部ノ製造若ハ修繕ニ關スル技術ニ從事スル者)
- 十 窯業技術者(セメント、ガラス、陶磁器、耐火煉瓦又ハ其ノ他ノ窯業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者)

從業者移動防止令施行規則

昭和十五年十一月
厚生省令第五十一號

改正 昭和十六年第二號

(本文略)

勞働者災害扶助法

昭和六年四月
法律第五十四號

改正 昭和一〇年第一八號

第一條

本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

- 一 土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火藥類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ
- 二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壊ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ
 - (イ) 國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事
 - (ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事並ニ此等ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ニ關スル注文ニ依ル工事
 - (ハ) 其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ
- 三 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業
- 四 船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場所ニ於ケル貨物積卸ノ事業ニシテ動力ニ依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ
- 五 前各號ニ掲グルモノノ外危険ナル事業又ハ衛生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定ス

勞働者災害扶助法

ルモノ

主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂礫ヲ採取スル事業及岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限リ本法ヲ適用スルコトヲ得

第二條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベシ

第三條 前條ノ事業主トハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ全部又ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サル場合ニ於テハ元請負人ヲ其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス

前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負人ヲシテ同一ノ工事ニ付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ專ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルモノナルトキハ其ノ注文者モ亦其ノ事業ニ付事業主トス船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ作業(動力ニ依リ運轉スル揚重機ヲ用フルモノニ限ル)ニシテ注文ニ依リ爲サルモノ又ハ同項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事ニ付テハ其ノ注文者(數次ノ注文ニ依ル場合ニ於ケル上級注文者ヲ含ム)モ其ノ

注文ニ依ル作業又ハ工事ニ關シ亦同シ

前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ニ對シ、尙數次ノ注文ニ依ル場合ニ於テハ其ノ下級注文者ニ對シテモ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得前條第三項但書ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條ノ二 事業主本法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

事業主及労働者ノ出捐スル共済組合勅令ノ定ムル所ニ依リ事業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第四條ノ三 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第四條ノ四 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第五條 行政官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ行ハルル場所ニ於ケル危害ノ防止又ハ衛生ニ關シ必要ナル事項ヲ事業主又ハ労働者ニ命ズルコトヲ得

第六條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第七條 事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

労働者災害扶助法

第九條 事業主未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條 本法中事業主ニ關スル罰則ハ國、道府縣、市町村及勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

附則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十年法律第十八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年勅令第四百四十六號ヲ以テ昭和十三年十一月一日ヨリ施行)

勞働者災害扶助法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第四條ノ三ノ規定ヲ適用ス

勞働者災害扶助法施行令

昭和六年十一月
勅令第二百七十六號

改正 昭和八年第三一四號、一一年第四四八號、一三年第二〇號
一五年第六一五號

第一條

勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(イ)ノ公共團體ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、學區並ニ町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノ及其ノ組合
- 二 水利組合、水利組合聯合會及北海道土功組合
- 三 耕地整理組合及土地區劃整理組合並ニ其ノ聯合會

第二條

勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル規模ノモノトス但シ軒高九米未滿ニシテ且建築面積三百三十平方米未滿ノ木造家屋ノ建築工事ヲ除ク

- 一 使用勞働者延人員千人以上ノモノ
- 二 請負ニ依ルモノニシテ請負金額五千圓以上ノモノ
- 三 火藥類、動力(一馬力以下ノ電動力ヲ除ク)ニ依リ運轉スル機械又ハ運搬ノ用ニ供スル軌道ヲ用フルモノニシテ使用勞働者延人員三百人以上ノモノ
- 四 地上十米以上又ハ地下三米以上ニ於テ作業ヲ爲スモノニシテ使用勞働者延人員三百人以上ノモノ

工事著手前ニ於ケル豫定計畫ガ前項ノ規模ニ該當スルモノハ工事著手後之ニ該當セザルニ至リ

勞働者災害扶助法施行令

シ場合ト雖モ前項ノ規模ニ該當スルモノト看做ス

第二條ノ二 労働者災害扶助法第一條第一項第五號ノ事業ハ工場以外ニ於テ行フ船舶（木造船船ヲ除ク）ノ解體ノ事業トス

第三條 事業主ハ労働者ガ業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ因リ死亡シタルトキハ本令ニ依リ扶助ヲ爲スベシ但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ事業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
前項ノ疾病トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

- 一 負傷ニ因リ發シタル疾病
 - 二 異物ニ因ル眼疾患、重量物體ノ取扱ニ因ル腱鞘炎其ノ他災害ニ因ル疾病
 - 三 毒性、劇性又ハ刺激性料品ニ因ル中毒症又ハ皮膚若ハ粘膜ノ障碍
 - 四 氣壓ノ急激ナル變化ニ因ル疾病
 - 五 有害ナル光線ニ因ル眼疾患
 - 六 其ノ他厚生大臣ノ指定スル疾病
- 第一項ノ扶助義務ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外労働者ノ解雇ニ因リテ變更セララルコトナシ

工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ニ付テハ本令ニ依ル扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

第四條 労働者負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ事業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スベシ

第五條 労働者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ事業主ハ労働者ノ療養中一日ニ付標準賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セララルル者ニシテ繼續使用セララルコト十日未滿ノ者ニ付テハ事故發生ノ日ヨリ起算シ三日間ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

労働者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ標準賃金ノ百分ノ二十トス

第六條 労働者ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ事業主ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ標準賃金百八十分（其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓）ヲ下ルコトヲ得ス

別表ニ掲グル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 一級
 - 二 第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 二級
 - 三 第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 三級
- 別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ

労働者災害扶助法施行令

準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第七條 勞働者重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且事業主其ノ事業ニ付地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ認定ヲ受ケタルトキハ休業扶助料及障害扶助料ハ之ヲ支給スルコトヲ要セズ

第八條 勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ標準賃金四百日分（其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓）ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

第九條 勞働者死亡シタルトキハ事業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ標準賃金三十日分（其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓）ノ葬祭料ヲ支給スベシ

第十條 第四條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スベシ但シ本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回以上之ヲ支給スベシ

障害扶助料ハ勞働者ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ事業主ガ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ勞働者ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ

事業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

勞働者災害扶助責任保險法ニ依リ保險セラルル場合ニ於テハ第二項但書及前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條 第四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル勞働者療養開始後一年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セザルトキハ事業主ハ標準賃金五百四十日分（其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓）ノ打切扶助料ヲ支給シ以後前七條ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ扶助料ハ第七條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ二分ノ一トス

第十二條 別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受クル勞働者扶助ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合ニ於テハ事業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スベシ

第十三條 事業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ事業主及勞働者ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條 勞働者災害扶助責任保險法第四條第二項ノ規定ニ依リ政府ガ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂ヒタルトキハ事業主ハ其ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

勞働者災害扶助法施行令

第十五條 標準賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事又ハ同號(ハ)ノ工事ニ使用セラ
ルル者ニ付テハ一日ニ付十六歳未満ノ者ハ五十五錢、十六歳以上ノ女子ハ八十錢、其ノ他ノ者
ハ一圓三十錢

二 勞働者災害扶助法第一條第一項第四號ノ事業ニ使用セララルル者ニ付テハ事故發生前(賃金締
切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以前)一月間當該事業ニ繼續使用セラレタル同種勞働者
ノ賃金總額ヲ其ノ勞働者ノ數ニ其ノ期間ノ日數ヲ乘ジタル數(業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療
養ノ爲休業シ賃金ヲ受ケザル日數ヲ控除ス)ヲ以テ除シタル金額

三 前二號以外ノ事業ニ日日雇入レラルル者又ハ使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ使用セラ
ルル者ニ付テハ事故發生ノ日ニ於テ當該事業ニ使用セラレタル同種勞働者ノ平均賃金ノ三分ノ
二

四 前三號ニ該當セザル者ニ付テハ事故發生前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前賃金締切日以
前)三月間(雇入後三月ニ滿チザルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以
テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シ
タル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ズ

五 健康保險法ノ被保險者ニ付テハ前四號ノ規定ニ拘ラズ事故發生當時其ノ者ニ付定メラレタル
標準報酬日額

六 前各號ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト能ハザル者ニ付テハ地方長官ノ定ムル金額

厚生大臣ハ業務ノ種類又ハ地域ヲ限リ前項第一號ノ金額ヲ増加又ハ減少スルコトヲ得

第一項第四號ニ規定スル期間中ニ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間アルトキ
ハ其ノ日數及其ノ期間中ニ於ケル賃金ハ第一項第四號ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

第一項第四號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ
對スル手當ヲ包含セズ

第十六條 前條ノ規定ニ依リ標準賃金ヲ算出スルコト不適當ナル場合ニ於テハ事業主ハ地方長官ノ
認可ヲ受ケ別段ノ標準賃金ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 工場法施行令第十條乃至第十二條、第十三條ノ二、第十五條及第十八條ノ規定ハ本令ノ
扶助ニ付之ヲ準用ス

第十八條 國ノ直營スル事業ニ於ケル勞働者ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第十九條 勞働者災害扶助法第十一條ノ公共團體ハ道府縣又ハ市町村ニ準ズベキモノトス

第二十條 本令中地方長官トアルハ砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

附則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十一年勅令第四百四十八號)

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキハ本令

勞働者災害扶助法施行令

ニ依リ之ヲ扶助スヘシ

附則 (昭和十五年勅令第六十五號)

本令ハ昭和十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ改正規定ハ請負金額一萬圓未滿ノ工事ニシテ本令施行前ニ請負契約ノ締結セラレタルモノニハ之ヲ適用セス

本令施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

身體障害等級及障害扶助料表 (略)

労働者災害扶助法施行規則

昭和六年十一月
内務省令第五十二號

改正 昭和八年第二六號、一〇年第四八號、一一年第五四號

(本文略)

鑛石配給統制規則

昭和十五年九月
商工省令第七三號

第一條 本則ニ於テ鑛石トハ輸入シタルモノヲ除クノ外金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛及硫化鐵鑛ヲ謂フ

第二條 鑛業權者ハ其ノ鑛山ヨリ産出スル鑛石ニシテ當該鑛山ノ附屬製鍊場以外ノ製鍊場又ハ事業

場(硫酸製造工場其ノ他鑛石ヲ使用スル事業場ヲ謂フ以下同ジ)ニ販賣其ノ他如何ナル原因ニ因ルヲ問ハズ送付スルモノニ付鑛山毎ニ毎年四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル期間(以下上期ト稱ス)及十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間(以下下期ト稱ス)ノ鑛石送付計畫ヲ定メ上期ノモノニ在リテハ二月末日迄ニ、下期ノモノニ在リテハ八月三十一日迄ニ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ但シ當該期間ニ於ケル送鑛量三百匁ニ滿タザル鑛山ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル鑛石送付計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 鑛山ノ名稱及所在地

二 鑛業權者ノ氏名名稱及住所

三 送付スル鑛石ノ左ニ掲グル事項(送付先タル製鍊場又ハ事業場別ニ記載スベシ)

(一) 送付先タル製鍊場又ハ事業場ノ名稱及所在地並ニ製鍊業者又ハ事業主ノ氏名名稱及住所

(二) 種類別數量及品位

(三) 輸送徑路ノ概要

前項ノ鑛石送付計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

一 當該鑛山ニ於テ當該期間ニ産出スル鑛石ノ種類別數量及品位(粗鑛及精鑛ノ別ニ記載スベシ)

二 前號ノ鑛石ニシテ當該鑛山ノ附屬製鍊場ニ於テ當該期間ニ製鍊スルモノノ種類別數量及品位

三 上期又ハ下期ノ初日及末日ニ於ケル種類別貯鑛數量及品位

第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル者第二項第三號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之

鑛石配給統制規則

ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ但シ一製鍊場又ハ一事業場ニ對シ送付スル鑛石ノ總數量ヲ二割以内増減スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 製鍊業者ハ其ノ製鍊場ニ於テ製鍊スル鑛石(金、銀、銅、鉛、錫又ハ亜鉛ヲ含マザル硫化鐵鑛及鐵鑛ヲ除ク第六條ノ場合亦同ジ)ニシテ當該製鍊場ノ附屬スル鑛山以外ノ鑛山又ハ製鍊場若ハ事業場ヨリ買入其ノ他如何ナル原因ニ因ルヲ問ハズ受入ルルモノニ付製鍊場毎ニ毎年上期及下期ノ鑛石受入計畫ヲ定メ上期ノモノニ在リテハ二月末日迄ニ、下期ノモノニ在リテハ八月三十一日迄ニ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ規定ニ依ル鑛石受入計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 製鍊場ノ名稱及所在地

二 製鍊業者ノ氏名名稱及住所

三 受入ルル鑛石ノ左ニ掲グル事項(受入先タル鑛山、製鍊場又ハ事業場別ニ記載スベシ)

(一) 産出鑛山ノ名稱及所在地並ニ鑛業權者ノ氏名名稱及住所

(二) 受入先タル鑛山、製鍊場又ハ事業場ノ名稱及所在地並ニ鑛業權者、製鍊業者又ハ事業主ノ氏名名稱及住所

(三) 種類別數量及品位

(四) 輸送徑路ノ概要

前項ノ鑛石受入計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

一 當該製鍊場ニ於テ當該期間ニ製鍊スル鑛石ノ種類別數量及品位

二 附屬製鍊場ニ在リテハ當該製鍊場ノ附屬スル鑛山ヨリ當該期間ニ受入ルル鑛石ノ種類別數量及品位

三 上期又ハ下期ノ初日及末日ノ種類別貯鑛數量及品位

第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル者第二項第三號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ但シ一鑛山、一製鍊場又ハ一事業場ヨリ受入ルル鑛石ノ總數量ヲ二割以内増減スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ鑛業權者、製鍊業者又ハ事業主ニ對シ鑛石ノ賣買、送付又ハ受入ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ鑛石送付計畫ヲ届出デタル者ハ其ノ實施ノ狀況ニ付鑛山毎ニ上期及下期ノ鑛石送付報告書ヲ上期ノモノニ在リテハ十月三十一日迄ニ、下期ノモノニ在リテハ四月三十日迄ニ商工大臣ニ提出スベシ

第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ鑛石送付報告書ニ之ヲ準用ス

第六條 第三條第一項ノ規定ニ依リ鑛石受入計畫ヲ届出デタル者ハ製鍊場毎ニ毎月末日迄ニ前月分ノ鑛石受入報告書ニ左ニ掲グル事項ヲ鑛石ノ受入先別及種類別ニ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

一 前月中ニ受入レタル鑛石ノ豫定實收率

二 前月中ニ買入レタル鑛石ノ買入價額及其ノ算出ノ基礎

第三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ鑛石受入報告書ニ之ヲ準用ス

鑛石配給統制規則